

# 第1章

## 地域の環境評価

---

## 第1節 環境特性

### 1. 地域の概要

#### 1-1.位置

小郡市の位置を、図1に示します。本市は、福岡県の南西部、筑紫平野の北、佐賀県との県境に位置しています。市域は、東西約6km、南北約12km、総面積は45.5km<sup>2</sup>となっています。小郡市には鳥栖市、久留米市や筑紫野市が隣接しています。南北には西鉄天神大牟田線、東西には甘木鉄道が走り、また、九州自動車道の隣接、大分自動車道の横断といった交通網の充実により、本市は周辺の大都市圏をつなぐ連結都市と位置づけることができます。

本市は、筑後川と宝満川が合流するデルタ地帯に位置しており、市域の中央部を流下する宝満川の西側には住宅地帯、東側には田園地帯が広がっています。

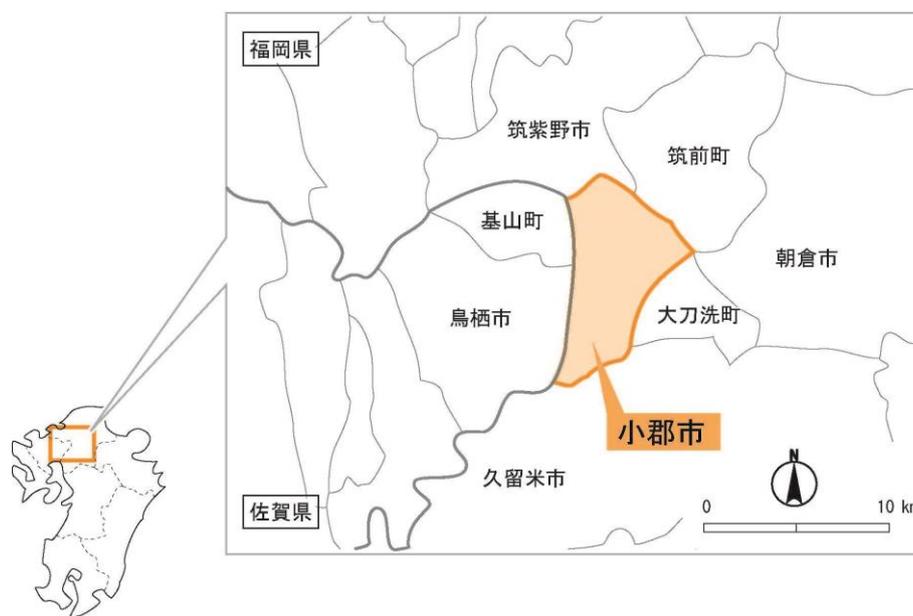


図1 小郡市の位置

## 1-2.沿革

小郡市の歴史は古く、縄文期以降の三沢遺跡、花立山古墳など数多くの遺跡、古墳などが散在し、日本書記には、客館として「筑紫小郡」の名が記されています。

本市は筑前、筑後、肥前の境界に位置し、大宰府にも近く、博多へ通じる交通の要衝であり、古くから九州における重要な南北連絡の通過地でした。奈良時代には「小郡官衙（かんが）」が置かれ、大宰府客館所在地として活況を呈していました。江戸時代には豊前小倉から薩摩坊の津にいたる「坊の津街道」が本市の松崎周辺を通過し、往時の発展を支えていました。

明治時代に国道3号、国鉄鹿児島本線等の近代的交通網から外れ、交通の要衝という地域発展の条件を失いましたが、大正13年には西鉄大牟田線の福岡－久留米間が開通しました。近年では、九州自動車道及び長崎・大分自動車道の供用（小郡ICの開設）、甘木鉄道（旧国鉄甘木線）の運行に伴い、本市は、再び九州における交通の要衝として浮かび上がってきました。



小郡市の変遷を表1に示します。明治22年、町村制の施行により小郡村が誕生。昭和28年には、小郡村から小郡町となり、昭和30年に小郡町と三国村、立石村、御原村、味坂村の1町4村が合併し、小郡町になりました。この頃に始まる我が国の高度経済成長により、福岡都市圏が拡大し、本市は西鉄大牟田線を通じて、この影響を直接受けました。そして、人口急増により昭和47年に市制を施行し、小郡町から小郡市になりました。

表1 小郡市の変遷

年 月 日	小郡市の変遷
明治 22 年 4 月 1 日	小郡村、三国村、立石村、御原村、味坂村
明治 28 年 12 月 1 日	小郡町、三国村、立石村、御原村、味坂村
昭和 30 年 3 月 31 日	小郡町
昭和 47 年 4 月 1 日	小郡市

## 2. 自然環境

### 2-1. 気象

#### (1) 気温

年平均気温平年値の分布、小郡市の月平均気温を以下に示します。小郡市の平年値は、全国的にみて温暖となっています。月平均気温は 27.2℃～5.1℃で推移しています。九州型気候の日本海型と内陸型の接点に位置しており、夏冬の気温差が大きくなっています。

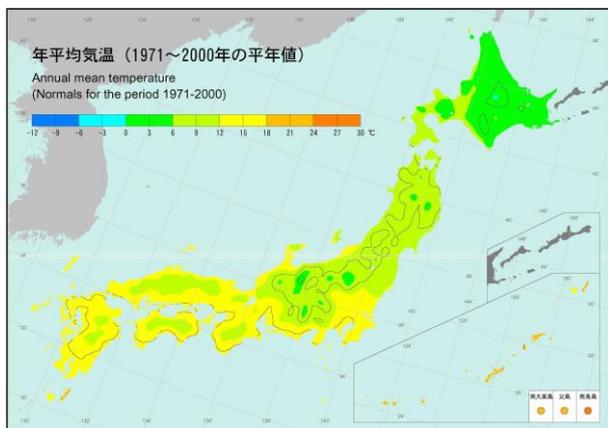


図 2 年平均気温平年値の分布<sup>1)</sup>

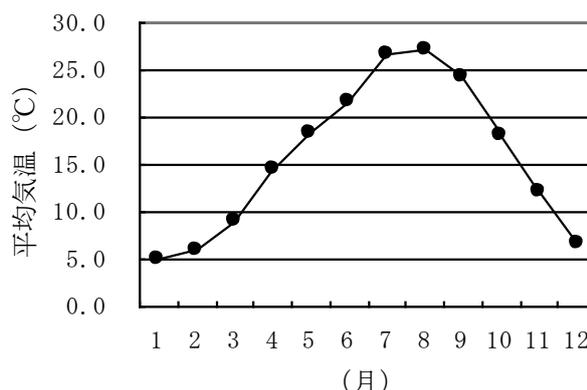


図 3 小郡市の月平均気温  
(1998～2008年の平年値)<sup>2)</sup>

#### (2) 降水量

年降水量平年値の分布、小郡市の月降水量を以下に示します。小郡市の平年値は、全国的にみて平均的となっています。月降水量は梅雨期の 6～7 月に多く、冬期には少ない状況となっています。

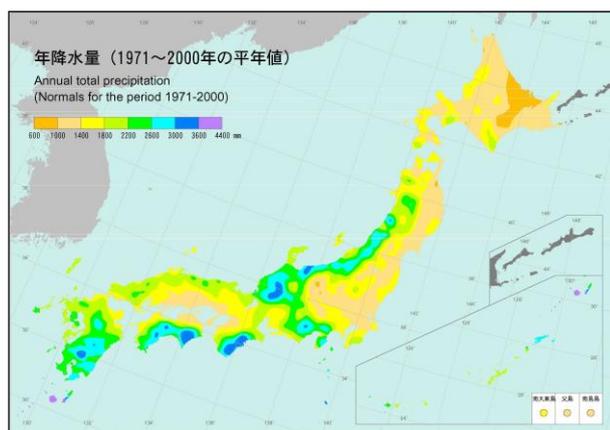


図 4 年降水量平年値の分布<sup>1)</sup>

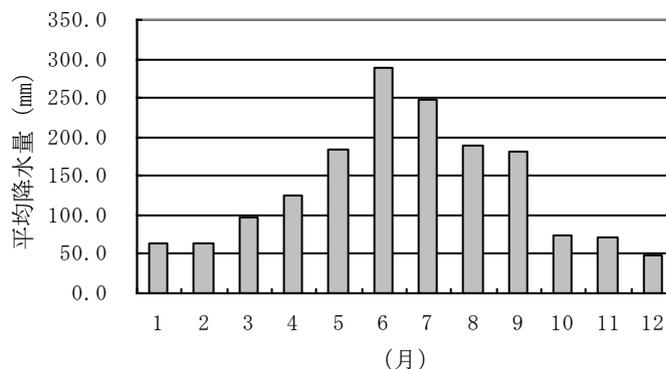


図 5 小郡市の月降水量  
(1998～2008年の平年値)<sup>2)</sup>

1) 気象庁ホームページより作成(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/>)

2) 小郡市三井消防署観測データより作成

## 2-2.地形・地質

### (1)地形

小郡市の地形を図 6 に示します。

地形は大きく3つに区分でき、市域中央部の平坦地、北東部の台地、北西部の丘陵地からなっています。

本市は、筑後川と宝満川が合流するデルタ地帯に位置するため、市域を南北に貫流する宝満川周辺の大部分は、標高15m以下の平坦地です。北東部の台地には、花立山（標高130.6m）が位置し、北西部の丘陵地には、標高20～90mの滑らかな丘陵が連なっています。

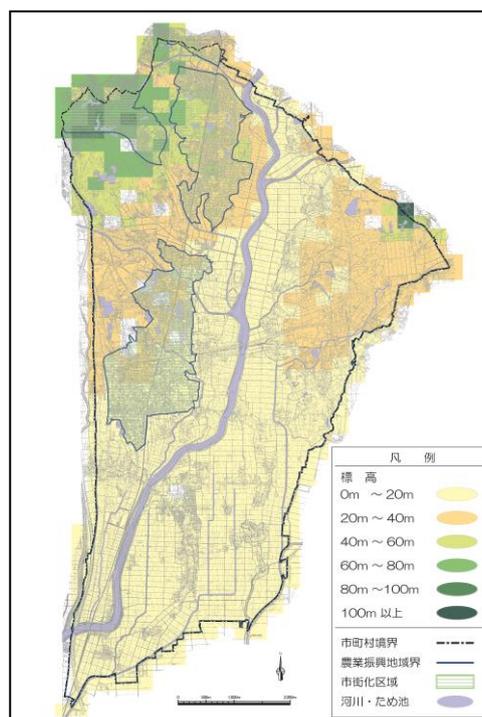


図 6 地形<sup>1)</sup>

### (2)地質

小郡市の地質を図 7 に示します。

地質は、宝満川沿いの標高15m以下の平坦地では角閃石安山岩で、標高が高くなると輝石安山岩となっています。また、北部丘陵地の一部は火山砕屑物、花立山山頂付近は凝灰角礫岩となっています。

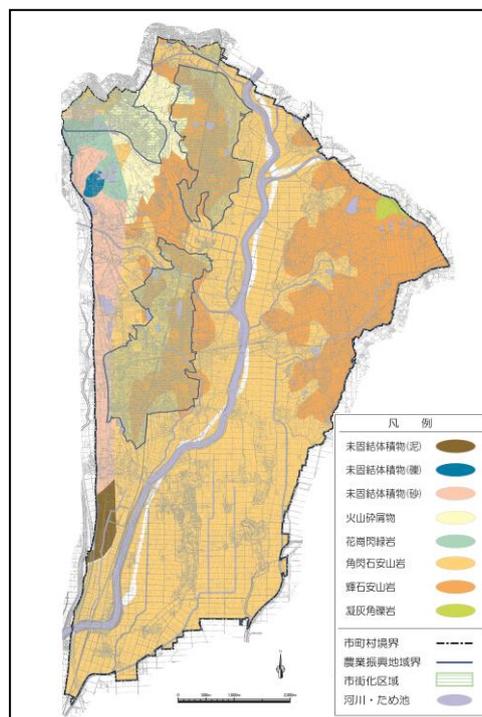


図 7 地質<sup>2)</sup>

1)国土数値情報ダウンロードサービス（標高・傾斜度3次メッシュ）より作成  
([http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/jpgis\\_datalist.html](http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/jpgis_datalist.html))

2)国土交通省 土地・水資源局 国土調査課ホームページより作成  
(<http://tochi.mlit.go.jp/tockok/inspect/landclassification/download/>)

### (3)表層土壌

小郡市の表層土壌を図 8 に示します。

表層土壌は、宝満川周辺の平坦地では灰色低地土、その周囲のやや標高が高い地域では黒ボク土となっています。北西部の丘陵地、花立山の山頂付近の山林部では、褐色森林土がみられます。

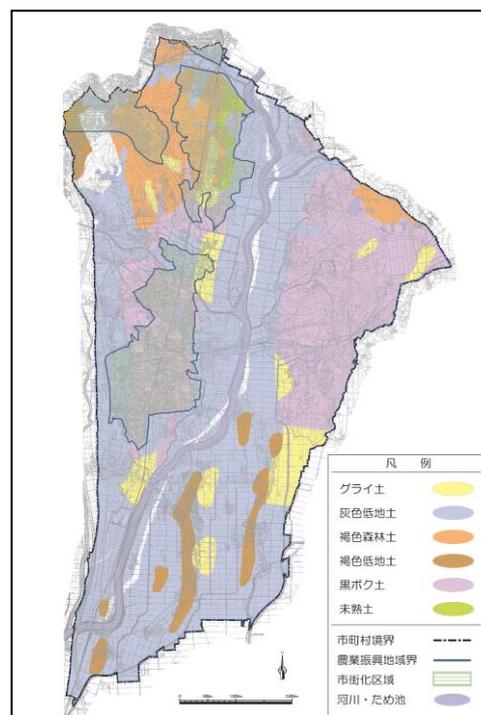


図 8 表層土壌<sup>1)</sup>

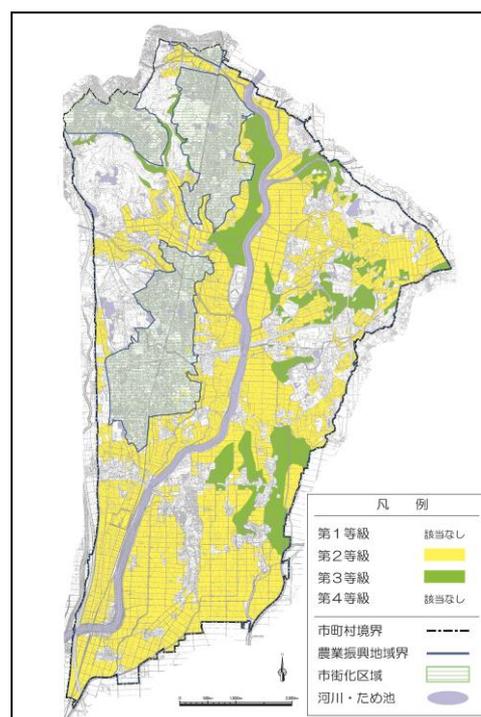
### (4)土壌生産力

小郡市の土壌生産力を図 9 に示します。

水田、畑ともに、市域には土壌生産力が1等級もしくは4等級の地域はありません。

水田の土壌生産力をみると、ほとんどの範囲で2等級となっており、市の北部や御原地区周辺などに3等級の地域が点在しています。

畑の土壌生産力をみると、花立山一帯では3等級が広がり、2等級は小さな面積で点在しています。



備考)  
 第1等級：生産力が高く、特に改良を要しない。  
 第2等級：生産力が高いが、多少の改良を要する。  
 第3等級：生産力は余り高くなく、改良する余地は大きい。  
 第4等級：生産力は低く、改良するのも困難であり、耕地としての利用は極めて困難。

図 9 土壌生産力(水田)<sup>2)</sup>

1)国土交通省 土地・水資源局 国土調査課ホームページより作成

(<http://tochi.mlit.go.jp/tockok/inspect/landclassification/download/>)

2)福岡県総合農業試験場「水田および畑地土壌生産性分級図 1/50,000(昭和 38 年)」より作成

## 2-3.水環境

## (1)河川、ため池

小郡市の河川、ため池を図 10 に示します。

本市の中心を宝満川が南北に流れており、この宝満川に口無川、高原川、宝珠川、牟田川、草場川、鎗巻川が合流しています。

南部水田地帯を法司川、烏田川、思案橋川、石原川、築地川が南北に流れ、農業用水路として利用されています。

ため池は 57 カ所あり、サギの仲間など水鳥の生息地となっています。

表 2 ため池

地図上 番号	名称	受益面積 ha	緒元		
			有効貯水量 千 <sup>3</sup> m	堤高 m	堤長 m
1	松ヶ浦(上)堤	12.5	12,300	5.1	50.0
2	松ヶ浦(下)堤	4.2	6,100	4.0	50.0
3	松ヶ浦(小)堤	4.2	220	3.0	25.0
4	澗田堤	14.5	54,300	9.0	60.0
5	大林堤	1.0	4,200	5.5	11.0
6	影堤	5.0	37,800	8.0	90.0
7	勝負坂堤	29.0	23,300	4.0	70.0
8	山道堤	29.0	52,300	4.0	130.0
9	中堤	29.0	14,600	4.0	50.0
10	上田町堤	29.0	41,800	9.0	100.0
11	一の口堤	11.0	17,500	4.0	50.0
12	公家熊堤	4.4	4,900	-	20.0
13	蓮ヶ浦堤	6.2	11,000	4.0	40.0
14	光田堤	6.2	15,400	4.0	90.0
15	井の浦堤	9.4	35,000	5.0	100.0
16	前堤	6.8	15,200	4.0	70.0
17	御機堤	0.3	4,700	3.0	30.0
18	伊勢浦堤	4.0	-	8.0	100.0
19	山路堤	4.0	-	2.4	130.0
20	立石堤	34.3	24,800	4.0	40.0
21	本堤	-	-	-	-
22	猫谷堤	34.3	-	2.0	50.0
23	中牟田堤	34.3	6,100	2.0	61.0
24	新堤	34.3	32,600	6.0	130.0
25	正原堤	-	1,800	2.6	50.0
26	馬渡堤	1.3	-	4.0	40.0
27	向堤	4.0	3,400	2.1	30.0
28	向山堤	3.2	38,600	5.0	240.0
29	境石堤	1.0	15,600	3.0	90.0
30	舟底堤	1.7	7,354	4.0	25.0
31	泉堤	0.9	1,000	3.0	20.0
32	且田ヶ浦堤	12.0	44,400	4.0	220.0
33	勘田ヶ浦堤	3.4	11,000	3.8	97.0
34	須戸折堤	5.6	16,500	4.4	125.0
35	西下堤	18.0	5,758	4.0	80.0
36	西上堤	18.0	7,000	4.0	60.0
37	城山(上)堤	25.0	16,100	5.0	100.0
38	埋め立てにより欠番				
39	城山(小)堤	-	3,800	3.4	-
40	丸山堤	22.0	11,600	4.0	70.0
41	新堤	-	1,000	4.0	80.0
42	赤土堤	-	18,500	4.0	70.0
43	長浦堤	2.5	15,000	4.0	200.0
44	弥八郎堤	1.2	5,800	3.0	50.0
45	大添堤	5.8	21,600	4.0	360.0
46	城近堤	3.9	5,800	3.0	20.0
47	長浦堤	4.6	12,300	3.0	50.0
48	組坂堤	5.0	13,700	3.0	40.0
49	大板井(上)堤	5.0	7,900	2.0	50.0
50	大板井(下)堤	5.0	42,200	3.0	50.0
51	若山堤	5.0	48,000	4.0	50.0
52	野口(小)堤	0.6	5,500	1.0	50.0
53	野口(上)堤	5.7	69,400	4.0	12.0
54	野口(中)堤	4.3	14,400	3.0	50.0
55	野口(下)堤	2.3	8,300	3.0	100.0
56	山添堤	9.0	11,400	4.0	100.0
57	柿添堤	9.0	11,300	4.0	70.0
58	内畑堤	4.4	4,200	1.7	30.0

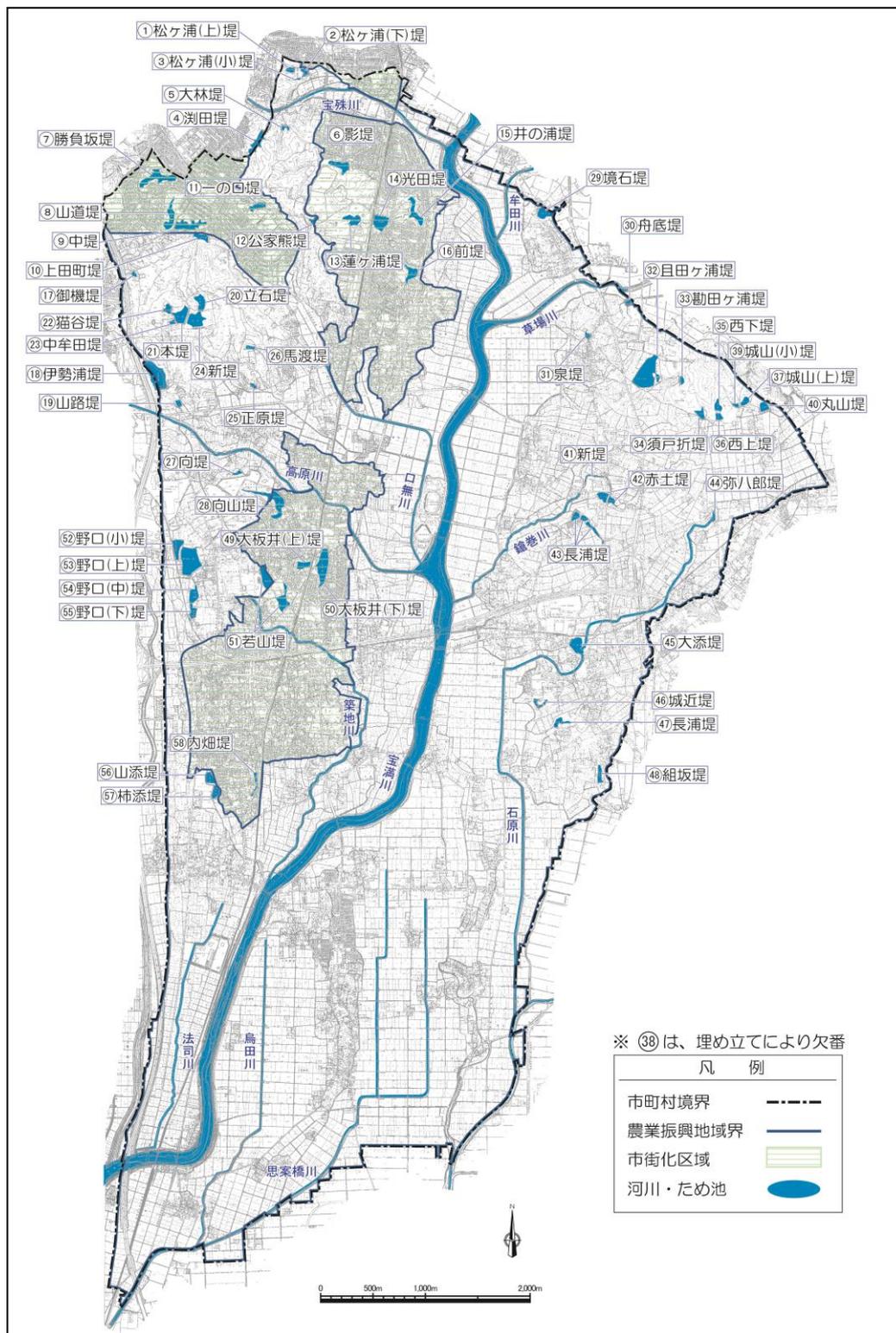


図 10 河川、ため池<sup>1)</sup>

1)小郡市ため池台帳より作成

## (2)水質

小郡市は、市内7河川、12か所において「生活環境の保全に関する環境基準」、「人の健康の保護に関する環境基準」について水質調査を実施しています<sup>1)</sup>。

このうち、主として生活排水の流入等に起因する、河川の有機汚濁に関する指標である BOD<sup>※</sup>、全窒素、全リン、大腸菌群数について、過去3年の結果を以下に示します。

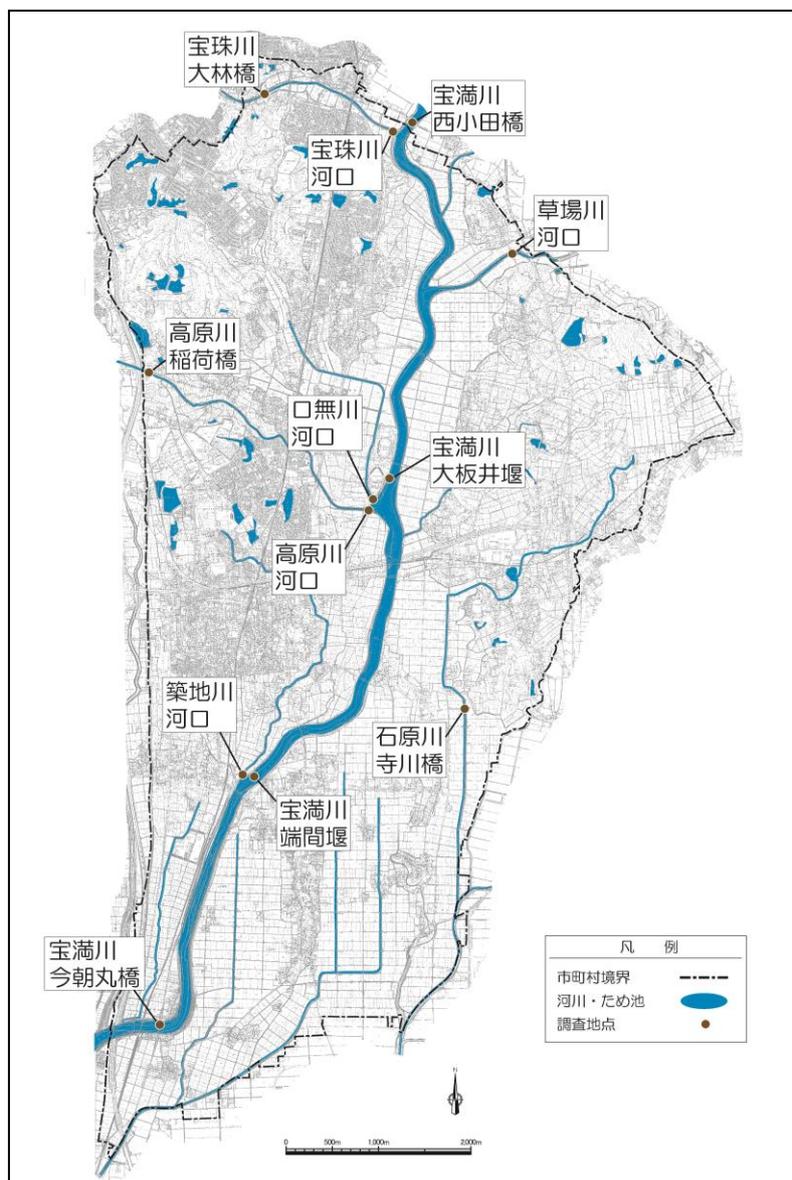


図 11 水質調査地点位置

### ※BOD とは

BODとは Biochemical Oxygen Demand の略称で、河川水などの汚染物質（有機物）が微生物によって無機化あるいはガス化されるときに必要な酸素量のことです。単位は一般的に mg/L で表わします。この数値が大きくなれば、水質が汚濁していることを意味します。

1)小郡市資料より作成

表3 BOD測定結果

単位：mg/L

	宝満川				宝珠川		草場川	口無川	高原川		築地川	石原川
	西小田橋	大板井堰	端間堰	今朝丸橋	大林橋	河口	河口	河口	稻荷橋	河口	河口	寺川橋
基準値*	3 以下				—							
2008年8月	1.7	1.3	1.4	1.1	定値下限値未満	定値下限値未満	0.8	0.9	0.5	0.9	1.3	1.1
2009年2月	1.6	1.6	1.2	1.6	1.3	1.6	2.5	1.6	2.0	1.2	2.5	1.7
2009年8月	2.3	1.4	2.3	3.5	1.0	1.2	1.4	1.1	1.3	3.4	1.6	1.0
2010年2月	1.0	0.7	0.8	0.7	0.8	1.4	1.0	0.8	1.1	定値下限値未満	1.1	0.8
2010年8月	3.0	1.6	3.4	3.1	1.8	1.8	1.6	1.1	0.9	3.5	3.0	1.2
2011年2月	0.8	0.8	1.3	1.0	1.1	1.1	0.9	1.0	1.4	N.D	0.6	1.3
2011年8月	0.7	1.3	1.1	1.1	0.5	0.6	1.0	1.6	1.0	1.1	3.3	1.2

※：「生活環境の保全に関する環境基準」であり、宝満川はB類型に指定されています。その他の河川には、類型の指定はありません。

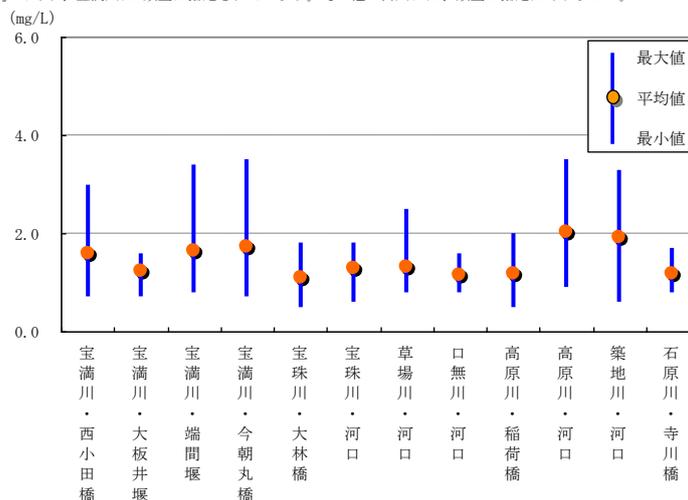


図12 BODの最大値、平均値、最小値(2008年8月～2011年8月)

表4 全窒素測定結果

単位：mg/L

	宝満川				宝珠川		草場川	口無川	高原川		築地川	石原川
	西小田橋	大板井堰	端間堰	今朝丸橋	大林橋	河口	河口	河口	稻荷橋	河口	河口	寺川橋
2008年8月	1.6	2.2	1.9	1.7	1.2	1.1	1.6	1.2	2.4	1.8	1.4	1.9
2009年2月	1.8	3.9	2.9	3.5	1.6	1.3	1.9	1.4	4.2	1.6	3.2	3.0
2009年8月	1.4	1.8	1.3	1.3	1.1	1.2	1.2	1.1	3.2	1.6	1.2	1.4
2010年2月	2.0	3.4	2.8	2.9	1.6	1.5	2.3	1.5	3.5	1.6	2.0	3.3
2010年8月	1.1	2.0	1.5	1.1	1.2	1.0	1.2	0.94	2.7	2.1	1.3	1.5
2011年2月	1.8	3.3	3.0	3.0	1.4	1.5	2.5	1.2	4.5	1.1	0.85	3.8
2011年8月	1.7	2.6	1.7	2.0	1.6	1.4	1.8	1.7	2.5	1.6	1.7	2.0

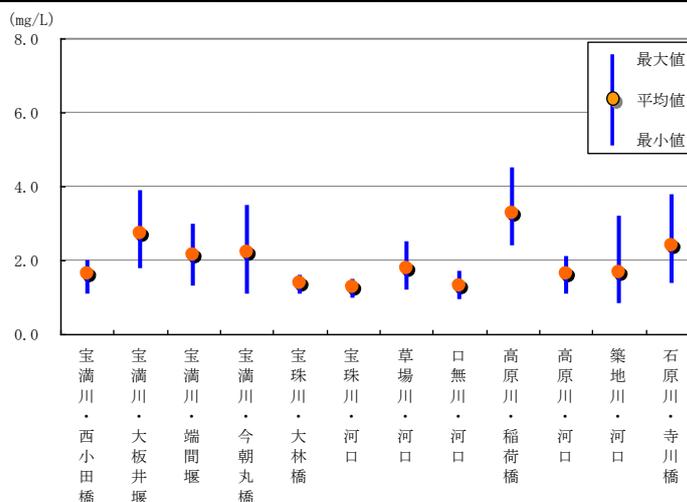


図13 全窒素の最大値、平均値、最小値(2008年8月～2011年8月)

表 5 全リン測定結果

単位：mg/L

	宝満川				宝珠川		草場川	口無川	高原川		築地川	石原川
	西小田橋	大板井堰	端間堰	今朝丸橋	大林橋	河口	河口	河口	稲荷橋	河口	河口	寺川橋
2008年8月	0.10	0.11	0.13	0.14	0.067	0.11	0.13	0.20	0.13	0.13	0.18	0.17
2009年2月	0.077	0.33	0.17	0.16	0.040	0.054	0.11	0.057	0.27	0.027	0.14	0.15
2009年8月	0.081	0.089	0.095	0.12	0.034	0.10	0.16	0.12	0.16	0.082	0.14	0.14
2010年2月	0.072	0.094	0.088	0.11	0.078	0.055	0.099	0.047	0.20	0.021	0.078	0.090
2010年8月	0.11	0.12	0.10	0.095	0.068	0.12	0.23	0.15	0.21	0.13	0.12	0.15
2011年2月	0.035	0.058	0.065	0.075	0.058	0.049	0.098	0.027	0.26	0.021	0.039	0.19
2011年8月	0.094	0.20	0.10	0.15	0.062	0.094	0.17	0.14	0.16	0.11	0.27	0.15

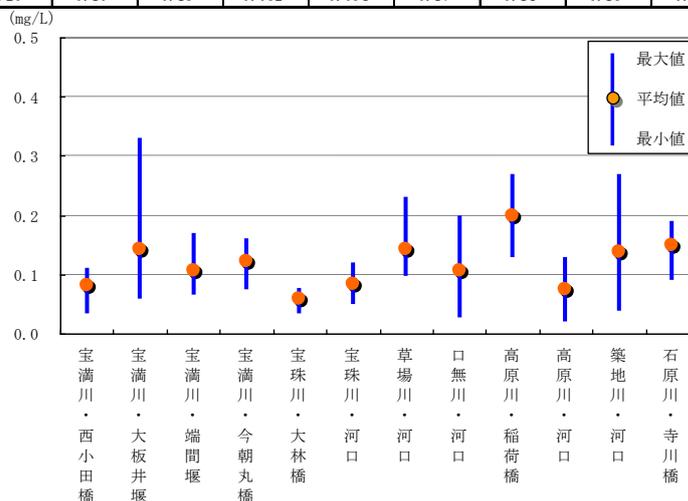


図 14 全リンの最大値、平均値、最小値(2008年8月～2011年8月)

表 6 大腸菌群数測定結果

単位：MPN/100mL

	宝満川				宝珠川		草場川	口無川	高原川		築地川	石原川
	西小田橋	大板井堰	端間堰	今朝丸橋	大林橋	河口	河口	河口	稲荷橋	河口	河口	寺川橋
基準値 <sup>※</sup>	5,000 以下											
2008年8月	140	260	210	2,200	1,300	390	4,900	200	1,300	1,700	1,100	330
2009年2月	170	46	46	170	110	140	330	70	23	46	110	46
2009年8月	9,200	5,400	5,400	2,200	16,000	9,200	5,400	9,200	9,200	2,400	5,400	16,000
2010年2月	130	17	27	34	49	170	920	110	46	17	17	33
2010年8月	3,300	3,300	7,900	11,000	3,300	7,900	24,000	22,000	4,900	3,300	24,000	14,000
2011年2月	1,700	230	490	330	490	790	54,000	490	1,100	11	330	700
2011年8月	11,000	13,000	11,000	7,900	7,900	33,000	7,000	11,000	11,000	13,000	13,000	4,900

※：「生活環境の保全に関する環境基準」であり、宝満川はB類型に指定されています。その他の河川には、類型の指定はありません。

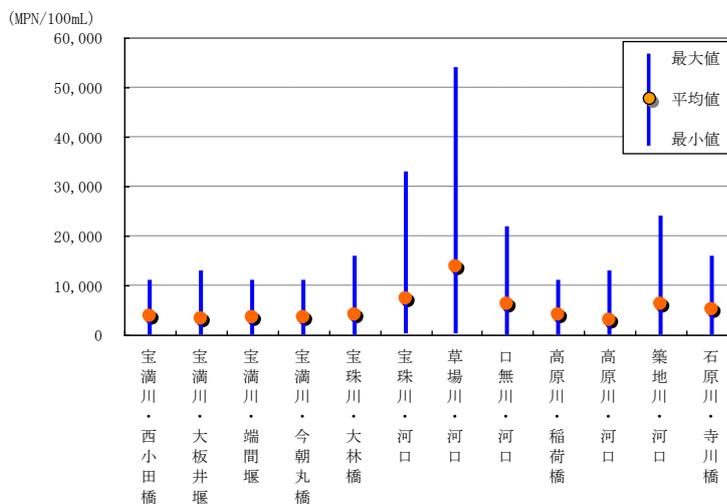


図 15 大腸菌群数の最大値、平均値、最小値(2008年8月～2011年8月)

## 2-4.生物

### (1)既存資料調査に基づく生物の状況

#### 1)植物

##### ①植物群落の分布状況

小郡市の大部分は、農耕地が占め、宅地や市街地は、市域の約17%となっています。

農耕地は、ほとんどが標高15m以下の平坦地に分布し、水田雑草群落となっています。畑や果樹園、苗圃は、標高がやや高い地域に点在しています。

樹林地は、花立山や北西部丘陵地に限られており、シイ・カシ萌芽林といった二次林が残っています。また、規模の小さな樹林地は、ため池周辺や社寺林などに多数残っています。

宝満川沿いは、路傍雑草群落が連続しています。

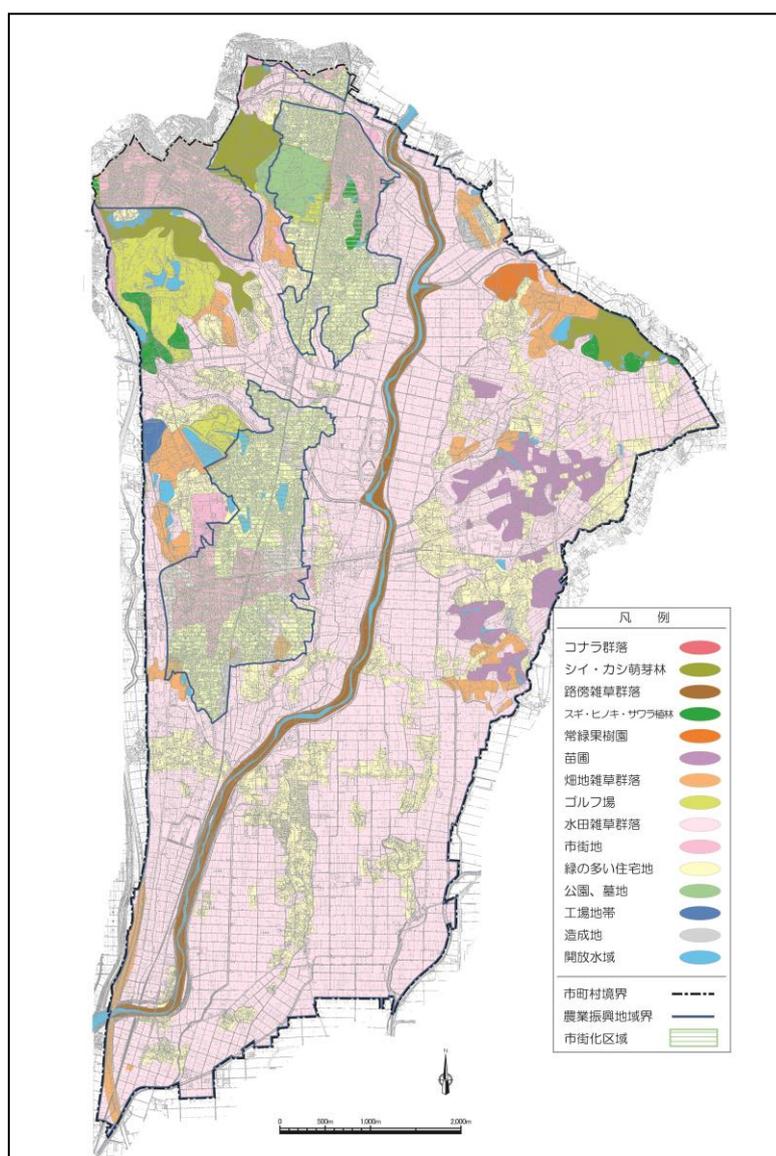


図16 既存植生<sup>1)</sup>

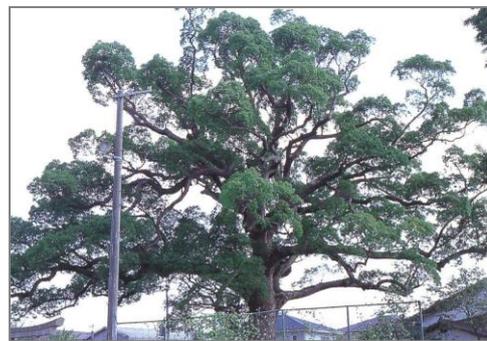
1)環境省生物多様性情報システムの自然環境保全基礎調査(第5回調査)より作成  
([http://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg\\_kiso.html](http://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html))

## ②小郡市指定の植物

小郡市指定の植物は、昭和 57 年、市制施行 10 周年を記念して制定されています。

くすのき：

水と緑、豊かな自然を象徴するかのよう、大地にしっかり根を張りたくましくのびています。市勢の発展、伸びゆく小郡市の力強さ、たくましさを強く感じさせる木です。



くすのき 1)

ふじ：

県指定天然記念物「将軍藤」が福童の大中臣神社にあり、小郡市のシンボルとして親しまれています。樹齢 600 年以上、根元周囲 3 メートルに及び、開花時には見事な淡い紫色の花を咲かせる上品で優雅な花です。



将軍藤 2)

1)小郡の自然～身近な動物・植物～ 小郡市史編集委員会 より引用

2)小郡市観光協会 HP より引用

(<http://kanko.ogori.org/content/root.jsp?cp=ZTJhXzU3MjEwNzU2MTMwMjAxMA==&tp=00>)

## 2)動物

小郡市は田園都市であり、山地帯に乏しい地理的条件のもとで、その動物相には特徴的なものはみられないようです。さらに近年における津古、三沢などの丘陵地の自然が減少し、動物相が変ぼうしているようです。

以下、「小郡の自然～身近な動物・植物～ 小郡市史編集委員会」をもとに整理しました。

### ①ほ乳類

ほ乳類が生息するためには多様な自然環境が必要ですが、宅地開発などにより、生息環境の単純化が進んでいます。市域の自然環境は平坦で、生息地が寸断されているため、ほ乳類にとっては生息地としての機能は貧弱といえます。

小郡市においては、以下のほ乳類がみられます。

ヒミズ、コウベモグラ、アブラコウモリ、ノウサギ、クマネズミ、ドブネズミ、ハタネズミ、カヤネズミ、タヌキ、キツネ、アナグマ、イタチ、イノシシなど

### ②鳥類

小郡市は、筑後平野に連なる田園と、宝満川とその河川敷、花立山、城山公園をはじめとする各所のため池、三沢の丘陵地などがあり、普通にみられる種類のほとんどが小郡市域でみられています。

小郡市においては、以下の鳥類がみられます。

スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、メジロ、ウグイス、シジュウカラ、カワラヒワ、ジョウビタキ、アマサギ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、カササギ、ミヤマカラス、ハシブトカラス、ハシボソカラス、トビ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カルガモ、マガモ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、コジュケイ、キジ、タシギ、ハクセキレイなど

### ③は虫類

主として住民への聞き取り調査結果をもとに、生息地の環境条件や近隣の情報などから、以下の種が生息していると考えられます。

小郡市においては、以下のは虫類がみられます。

クサガメ、スッポン、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、ヒバカリ、マムシ

#### ④両生類

小郡市は水田がよく発達し、各地にため池が多く存在します。河川や水路も多く、両生類の生息条件は揃っていますが、その反面、深山、渓谷といったものはありません。

両生類の天敵であるサギの仲間やヘビの仲間が減っている状況にもかかわらず、カエルの生息密度も低くなっていることから、田園の環境変化には注意が必要であると考えられます。

小郡市においては、以下の両生類がみられます。

イモリ、ヒキガエル、アマガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ツチガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル

#### ⑤昆虫類

小郡市では、昔から花立山を中心として、多くの昆虫類が確認されました。中には、日本で最小のハッチョウトンボが多産していたのは、特筆すべき点です。しかしながら、小郡市における近年の湿地の埋立や、樹林地の造成地化により絶滅したか、それに近い状況になった昆虫類もみられます。

花立山では、1962年に確認されたチョウ類は71種でしたが、30年の間に、以下に示す18種がみられなくなっています。三沢ではタイワンツバメシジミの記録がありますが、既に絶滅しています。

##### 【近年、みられなくなった種】

アカシジミ、トラフシジミ、コツバメ、クロシジミ、シルビアシジミ、ウラギンスジギョウモン、オオウラギンスジギョウモン、メスグロヒョウモン、ウラギンヒョウモン、オオウラギンヒョウモン、コムラサキ、ジャノメチョウ、ヒカゲチョウ、ミヤマセセリ、アオバセセリ、ヒメキマダラセセリ、オオチャバネセセリ、クロセセリ

ガ類については、よく調べられておらず、田園地帯であることと、樹林の茂る深い山もなく、唯一の花立山も標高が130mと低く、多様なガ類は望めないようです。

甲虫類についても、やはりごく普通の甲虫類がみられる程度です。昔には、稲吉橋の街灯で、オオクワガタが採集された記録があり、1970年代初め頃は、市内に貴重な自然が保たれていたことがわかります。

トンボ類は、市内に水辺が多いことから、生息環境に恵まれているようにみえますが、深い渓谷などがないことから、この環境に依存する種はみられません。現在までに概ね40種前後が確認されていますが、ハッチョウトンボなど、湿地の埋立により絶滅したと思われる種もいます。

その他、バッタ類やカメムシ類など多くの昆虫類が生息していますが、平坦な地形であるため、珍しい種は少ないと思われます。

## ⑥魚類

小郡市は、市の中心部に宝満川が流れているほか、ため池や小河川・農業用水路が多くみられ、約 40 種の魚類が確認されています。しかし、三面張側溝などの改修工事や水質の悪化により、宝満川において、ほぼ絶滅に近い魚が数種います。

オイカワ、カワムツ、ウグイ、タモロコ、ムギツク、モツゴ、タカハヤ、カマツカ、ツチフキ、ゼゼラ、イトモロコ、コイ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、ヤリタナゴ、アブラボテ、ニッポンバラタナゴ、カゼトゲタナゴ、セボシタビラ、カネヒラ、ドジョウ、ヤマトシマドジョウ、スジシマドジョウ、アリアケギバチ、ナマズ、ウナギ、オヤニラミ、ドンコ、ヨシノボリ、シモフリシマハゼ、アユ、メダカ、ライギョ、オオクチバス、ブルーギル、ハス

## ⑦貝類

小郡市は、宝満川の主流をはじめ多くの小河川があり、田園には用水路やため池が散在します。水辺には多くの貝類が存在しており、水田の用水路などには、カワニナやヒメタニシなどが多くみられました。古い神社や家屋の生け垣付近の、落ち葉や朽ち木の下などに、陸棲の貝がみられます。

魚類と同様、改修工事や水質の悪化により、個体数が減少している種もあるようです。

小郡市では、日本住血吸虫の中間宿主であるミヤイリガイの生息地であったことは有名で、撲滅事業の努力により、現在ミヤイリガイはみられなくなっています。

これまで、以下の種が確認されています。

マシジミ、ドブガイ、カワニナ、モノアラガイ、ヒメモノアラガイ、マルタニシ、ヒメタニシ、スクミリンゴガイ、サカマキガイ、ヤマタニシ、トクサオカチョウジガイ、オカチョウジガイ、ホソオカチョウジガイ、キュウシュウナミコギセル、ナミギセルガイ、オボロナミギセル、ヒメオカモノアラガイ、ツクシマイマイ、ウスカワマイマイ、ミヤイリガイ、ナメクジの仲間

## ⑧小郡市指定の動物

小郡市指定の動物は、昭和 57 年、市制施行 10 周年を記念して制定されています。

しらさぎ:小郡音頭にもうたわれ、市内随所に飛び交っています。群れをなして飛ぶ光景は情緒があり、田園都市としての市の発展を見守っているようです(しらさぎとは、一般にダイサギ、チュウサギ、コサギなど、全身が白いサギ類の総称です)。



チュウサギ

## (2)現地調査に基づく生物の分布状況と生息環境考察

### 1)調査概要

小郡市内における、農業農村環境を代表する6地点（秋季は4地点）を対象として、

○秋季調査－非灌漑期の2日間

○春季調査－灌漑期の2日間

に実施しました。

現地調査は、植物、鳥類、ほ乳類、は虫類、両生類、魚類、昆虫類、水産貝類・水産甲殻類の生息状況を概略的に把握する定性的調査としました。春季調査では植物担当と陸生動物担当を区別し、水圏がある場合は魚類・貝類・甲殻類の捕獲調査を別に実施しました。特に、水田とかかわりの深い種や水生生物など、環境指標となる種に重点を置き、最終的に生物多様性保全上肝要な環境タイプの区別に必要な情報の収集に努め、結果的に、魚類が特に有用なものとなりました。トンボ類、鳥類、水田・草地の雑草群も指標種を多く含みますが、調査時期の関係で捕捉できなかったものが多くあるものと考えられます。

表7 現地調査の網羅状況

項目	調査方法	生物相の網羅状況
植物	植物は調査範囲とその周辺の主要な種を記録しました。水域がある場合は、水生植物の生育状況に留意して記録をおこないました。	生育の有無は、調査範囲が限られているため概略調査としては比較的よく網羅され、現時点における外来種の侵入の状況等についての概略的な記録として利用できます。また、一部の水路には水生植物の多様性が残存しており、これらの情報を含んでいます。
動物	ほ乳類・は虫類・両生類は目撃法・フィールドサイン法*により種を記録しました。鳥類は目視と鳴声によって識別し記録しました。魚類・水産貝類・水産大型甲殻類は、投網、タモ網、サデ網、セル瓶（カゴ網）などにより任意に捕獲をおこないました。魚類では生息状況についての記録とするため、捕獲された種別に体長の最大・最小値と個体数を記録し、捕獲時の観察も含めて、出現頻度を記録しました。昆虫類は、トンボ類、チョウ類、ホタル類、水生カメムシ類、水生甲虫類など主要な昆虫や環境指標となる種群を主とし、基本的に調査時に捕獲確認、目撃確認されたものを記録しました。	魚類については、各環境に生息する種は個体数の多い主要な生息種が網羅され、現時点における生息状況の概略的な記録として有用なものとなっています。陸域では水田・畑地と人工的な環境が多いですが、水路では希少な種が比較的良く残存しており、環境別の整理に用いるなど、保全方法のとりまとめに活用できます。鳥類は一部希少種を含む種が確認され、地点・環境ごとの生息種の特徴の一部は把握されたが、特に本地区で重要性が高いタマシギ、ヒクイナ、冬季の刈田周辺での越冬鳥類などについての情報は不足しています。昆虫類では、本年は春季の低温、少雨などから発生が順調でなく、調査時において個体数も少ないものでした。魚類の残存状況に比べて水生昆虫は単純とみられましたが、網羅の難しさもあり、山麓谷津田環境には一定の多様性が残っているとみられるほか、水路においてはトゲナベブタムシなど重要な種の生息が知られ、調査で確認された種以外にも留意が必要な事項が多くあります。

#### ※フィールドサイン法とは

調査対象地域を可能な限り詳細に踏査し、生物の糞、足跡、食痕、巣、爪痕など（フィールドサイン）を発見し、種類を判別する方法です。

## 2)調査地点と調査範囲

調査地点に、各地点の調査範囲を示します。

- ①下流 : 宝満川下流域に広がる単一的な農耕地の代表環境
- ②中流 : 未整備の畔があり、水田と水路の連続性がみられる農耕地の代表環境  
本地点には水路の合流点があり、灌漑期の河川調査のみ、  
合流点の下流側を a、合流前の上流側を b に区分し、調査を行いました。
- ③城山 : 未整備の自然が残る農耕地の代表環境
- ④北西部丘陵地 : 居住地と雑木林に隣接する農耕地の代表環境
- ⑤幹線排水路 : 農地・水保全管理支払交付金事業（旧名称：農地・水・環境保全向上  
対策事業）でマシジミを保護している幹線排水路
- ⑥支線排水路 : 平地水田地区の集落内水路

なお、⑤と⑥は、春季の灌漑期調査時にのみ、魚介類や水生植物を対象に調査しました。

### 3)調査結果

生物の現地調査結果の概要を、以下にまとめました（詳細については、平成 22 年度基礎調査報告書を参照）。

#### ①小都市における農村環境タイプ別の環境特性

小都市の農村環境は、大まかには、城山周辺と北西部丘陵地山麓の森林に近い地区、筑後川支流宝満川流域の平地や、その周辺の低い河岸段丘台地に分布しています。

平地のほとんどは宝満川の沖積平野に集約されていますが、本来感潮域となる筑後川合流点付近に近い①下流付近や、一部宝満川堤防寄りの平地を除き、微傾斜地が多く、流れが緩い排水路が比較的多くあります。

上流側より、農村環境タイプを4つに区分しました。

##### Aタイプ：丘陵地谷津田、山麓傾斜地（ため池を含む）

城山周辺と北西部丘陵地山麓の森林に近い地区で、マルタニシ、ドジョウ、谷津田性トンボ類の存在から、以下のB～Dタイプと区分されるエリアです。

##### Bタイプ：自然堤防地形の排水路、用水路系統上中部

これに対して平野の上位に位置する自然堤防地形、扇状地末端付近、清流の用水路により二次的に、自然堤防にみられるような緩やかな流れのある排水路が復元されている地区です。タナゴ類やイシガイ、シジミ類などの小型の流水性の種が多く、透視度がやや高い流れには、沈水植物がみられます。

##### Cタイプ：自然堤防地形後背低地（排水路中下部）

小都市においては、有明海寄りの低湿地と、タナゴ類の繁殖地となりやすい微傾斜地との移行部が比較的広くみられ、むしろ沿海地的な特性の薄まる移行部的な地区の面積が広がっています。その移行部には両環境タイプの生息種が混生して、時に極めて多様な魚類群集を形成していますが、用水排水路に代表されるような流水環境に比べ水環境が悪化しやすくなっています（他に上下流の移動経路としても一定の位置を占めています）。この立地は小都市では「自然堤防地形の後背湿地」などにあたり、沿海地の広いヨシ帯を主な環境とし、原野性の大型の鳥類や猛禽類が生息する主なエリアとの差異もあり、保全上の留意すべき点も異なる点があることから、これを区別しました。

##### Dタイプ：河川下流沖積平野

生物相による分類では、相観ではCタイプに類似する平野においても、特に水路の生物群では立地の微細な差や、導水状況によって生息種や、潜在的な生息環境が異なります。すなわち、筑後川に近い下流側では、本来水はけが悪く、ヨシ原が卓越する環境であり、ハヤブサ、オオヨシキリなど原野性の鳥類が生息するなどの特徴があります。栄養流入の多い止水域には、コイ、フナ、ナマズなど個体重の大きな種が多く生息し、生産性が高くなっています。反面、栄養負荷により水質は悪化しやすく、護岸や川底の構造には高い水質浄化機能が求められます。

表 8 農村環境タイプの区分状況

農村環境タイプ	生物群集の特徴 指標種（未確認・希少種、資料による種）	該当する 調査地点	環境/水路の状況	土地分類 による定義	農村環境タイプの特徴、相観
<b>Aタイプ</b> 丘陵地谷津田、山麓傾斜地 (ため池を含む)  ※多様な生物がみられ、細やかな設計が必要な地区	谷津田性の生物が豊富（ヒクイナ、アナグマ、マルタニシ、ドジョウ）。 多様な水田雑草（ホシクサ、ミズマツバ、キツネノボタン、ミゾコウジュ）、ツクシオオガヤツリ（ため池）。 聞き取り調査として、フクロウ、オオタカ、ハイタカ、ニホンアカガエル、ジムグリ、ヤマシギ、カモ類越冬地。 ③城山では、環境からみて、トノサマガエル、ゲンジボタルの生息の可能性あり。	③城山 ④北西部丘陵地	山付の水田環境。平坦地～微傾斜の素掘り水路、小河川あり。 ③城山 山が小さいため集水域が狭く、ため池が多い。 ④北西部丘陵地 小河川がみられる谷間の緩やかな扇状地。	狭い谷底平野。山間の狭い扇状地。山付沖積平野辺縁。	スギ植林、竹林、広葉樹雑木林に接する山付の水田、畑地。 起伏と素掘り小水路と森林の近接が特徴。 マルタニシ、ドジョウ、谷津田性トンボ類などによって他のタイプから明確に区分される。 土水路は維持される。 小河川分布の扇状地、谷津田のため池分布地区など細分できる。 準湿性の種を含む草本類が多様。
<b>Bタイプ</b> 自然堤防地形の排水路 用水路系統上中部  ※排水路保全適地である。	水草(沈水植物、湿生植物、抽水植物)が特徴。 湧水や、木立(エノキ、ムクノキ)などの環境あり。 タナゴ類(アブラボテ、ヤリタナゴ、カネヒラ)、イシガイ、メダカ、ドジョウ、ヒクイナ、タマシギ、コシアカツバメ、サギ繁殖地、カササギがみられる。 トゲナベブタムシの生息の可能性あり。 聞き取り調査として、アオバズク、サギ類コロニー、ササゴイ。 ②中流bでは、水路に貝類、甲殻類がほとんどみられない。	②中流b ⑥支線排水路	平地水田地区の集落と接する集落内用水路。一部低い段丘集落周辺の小河川、幹線排水路など。 ②中流b 従来の小川が残る、宝満川ヨシ帯に近い低湿地環境。 ⑥支線排水路 平野の集落に水田が密接。集落内に用水幹線がみられ、これから取水される水路にも維持水が保たれる。	河川中流～下流の扇状地末端。自然堤防地形(沖積平野上位)。	比較的透明度が高く、浅い流れのある排水路が特徴。 立地が周辺平地より高いため、古くから集落が成立し、木立がみられる。 沈水植物、流水性のタナゴ類、イシガイの高い生息密度を特徴として、C、Dの平地タイプと明確に区分できる。 上流側はマコモ群落、沈水植物等自然性が高い。下流側にも深みと礫がある瀬が形成される。 宝満川ヨシ帯、ヤナギに近く、湿地性鳥類の生息の可能性が高い。  周辺は氾濫原下位の平野に位置するとみられる⑥支線排水路では、導水により魚類群集、沈水植物群がみられる。陸域相観と水路の生物群集が異なることがある。隔離された小河川に、在来生物群集が残存している可能性が高い。
<b>Cタイプ</b> 自然堤防地形後背低地 (排水路中下部)  ※排水路保全適地である。	原野性鳥類、タマシギ、カルガモ、チュウサギ(採餌場所)、オオヨシキリがみられる。 緩流～止水性タナゴ類(ニッポンバラタナゴ、カゼトゲタナゴ)、メダカ。 沈水植物(本来はオニバス、コウホネ類、ヒシなど浮葉植物が豊富)。 オオタチヤナギ、クヌギ、ナンキンハゼがみられる。 河川からの供給などによる生物相も特徴(陸側は清流性トンボ類が休む植生はないが、ハグロトンボの幼虫がみられ、カマツカが局所的に生息している)。	②中流a ⑤幹線排水路	平野水田。排水改良が進み、幹線排水路などが存在。 ②中流a 氾濫原平地の支線排水路。 ⑤幹線排水路 小麦が作付される平地で、直線的な幹線排水路。	中下流氾濫原沖積平野(下位)。	平野水田、小麦畑、段丘集落が隣接。自然堤防地形や段丘に近い微傾斜平地で、排水路に緩い流れがある。 排水改良や区画整理がなされ、水路は画一的となるが、一部に瀬淵が明瞭。一般にBタイプより川幅が広く、礫の堆積は少ない。河跡湖が生じる部分はDタイプとする。 対応する河川形態は中流～中流下流移行型。
<b>Dタイプ</b> 河川下流沖積平野  ※豊かな生産力の低湿地、ヨシが景観の特徴	原野性鳥類、オオヨシキリ、ハヤブサ、タマシギ、越冬カモ類がみられる。 ヨシ帯、ヒメガマ、ヒシ、オオタチヤナギが特徴。 生産量が大い低湿地泥底の魚類群集(ニッポンバラタナゴ、ツチフキ、ナマズ、ギンブナ、モツゴ、モノアラガイ)がみられる。 聞き取り調査として、タマシギ、ヒクイナ、カルガモがみられる。 キツネなどが宝満川河川敷から行動圏を形成している可能性あり。 小河川にウキヤガラを含む抽水植物群落、土手にイネ科草本群落(カヤネズミの生息の可能性あり)。	①下流	平野水田環境。幹線排水路は、河川に対して横に走り、水路脇にヨシがみられるのが特徴。 小麦耕作地、一部野菜畑地。筑後川から約5kmの幹線排水路(下流小河川状)。	下流氾濫原沖積平野(最下位、特に水はけが悪く本来河跡湖が生じる立地)。三角州や海成平野に近い低地。	小都市の平野は水通しが良く、最下流側でも水路には緩い流れがあり、流水性タナゴ類がやや普通にみられる。排水改良されていることもあり、Cタイプとの区別はしばしば不明瞭。区別点は、河川にヨシ帯がみられる区間で、海岸寄りのためハヤブサなど原野性の鳥類がみられる頻度が高い点。 対応する河川形態は下流型。河口デルタ(三角州)は含まれないが、沿海地のハヤブサなどの行動圏として一連の環境を形成。

表9 農村環境タイプ別 生物群集の特徴 (Aタイプ)

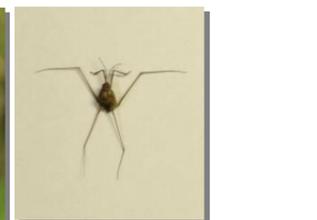
農村環境タイプ 生物群集の特徴	環境を構成する代表種と、生態系機能維持のための配慮事項
<p><b>Aタイプ</b> 丘陵地谷津田、山麓傾斜地 (ため池分布地、小扇状地、小河川分布地)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">       </div> <p>左から：マルタニシ、トウヨシノボリ、マシジミ、ニンギョウトビケラ・ハグロトンボ幼虫、ハグロトンボ成虫、シマアメンボ（溪流性）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">      </div> <p>左から：サラサヤンマ、ハラビロトンボ、ヒメギス(湿地性)、ケラ(湿地性)、林縁の昆虫</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">      </div> <p>左から：アマサギ、チュウサギ、シマヘビ、ヌマガエル、タヌキ(ため糞)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">       </div> <p>左から：ヤマツツジ、コクラン、シュンラン、クサイチゴ、タラノキ、ミツバ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">       </div> <p>左から：カワヂシャ、コバナワレモコウ、キツネノボタン、ノアザミ、スイカズラ、ツクシタツナミ</p> <p><b>&lt;配慮事項&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面と水田の連続性維持（水路による分断を避ける）。 ・ゲンジボタルが生息できる自然的な河岸形状（深すぎる垂直の護岸や三面張を避ける、礫底やよどみ、淵などを維持・復元する）。</li> <li>・周辺の刈取り草地の維持（コバナワレモコウ、コバノギボウシ、シラヤマギク、ツクシタツナミ）。</li> <li>・トノサマガエルの生息条件の回復が緊急に望まれる。トンボ類など他の生物の保全にもつながる（キツネノボタンなど多様な水田雑草がみられる土水路、冬季の湿所の回復）。</li> <li>・林縁にクサイチゴ、タラノキ、サルトリイバラ、スギナ、ワラビ、ヨモギ、ハハコグサ、ミツバ、ミツバアケビ、ムベなど山菜類が豊富であり、維持すべき。</li> <li>・コクラン、ホウチャクソウなど森林性の種の生育（谷津田の湿度供給機能）、シラヤマギク、ツクシタツナミなど、やや山林寄りに生育する種の生育環境の保全。</li> <li>・素掘り水路が維持されても、畦土の利用などが無ければ、キツネノボタンなどが減少し、ミゾソバ、イグサに置き換わる傾向あり。</li> <li>・激減する赤トンボ類の生息のためには、中干し時に水溜りが残る水口の構造、小規模な山付きの湿地、冬季の湿所などの維持が必要。</li> </ul>

表 10 農村環境タイプ別 生物群集の特徴 (Bタイプ)

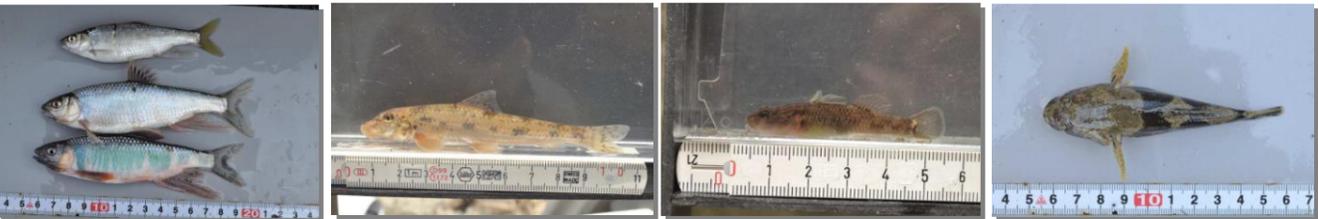
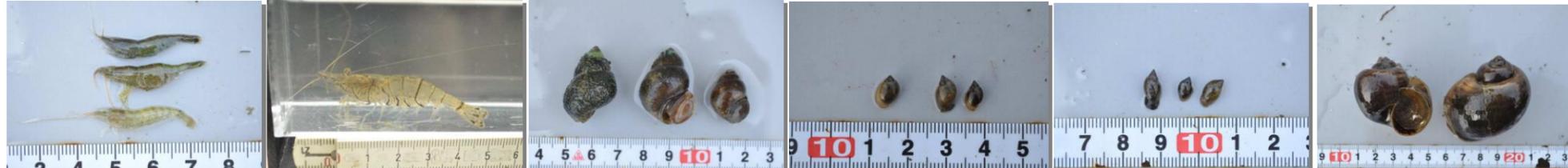
農村環境タイプ 生物群集の特徴	環境を構成する代表種と、生態系機能維持のための配慮事項
<p><b>Bタイプ</b> 自然堤防地形と排水路、用水路系統上中部</p> <p>水草(沈水植物、湿生植物、抽水植物)、集落、湧水、木立などの環境</p> <p>タナゴ類、ウナギ、ナマズ ヒクイナ、タマシギ、コシアカツバメ、サギ繁殖地</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">  <p>左から：ヤリタナゴ、アブラボテ、カゼトゲタナゴ、ムギツク</p>  <p>左から：オイカワ、カマツカ、トウヨシノボリ、ドンコ</p>  <p>左から：イシガイ、チリメンカワニナ、カワニナ、タイワンシジミ、マシジミ属</p>  <p>左から：ハグロトンボ、カササギ、セグロセキレイ、ツバメ(営巣)、同営巣環境</p>  <p>左から：エビモ、ホザキノフサモ、ヤナギモ、コカナダモ、ムクノキ等の河畔林</p> <p><b>&lt;配慮事項&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非灌漑期の維持水確保。複数の水路をつなぐことで、タナゴ類の移動経路ともなり、水路で保全をおこなう効果は大きい地区といえる。</li> <li>・水路系統の連続性の確保 (季節的に移動するタナゴ類、ヨシノボリ類、甲殻類等の移動経路)。</li> <li>・底の砂礫堆積促進 (ドブガイ、イシガイの生息地、水質浄化機能)。</li> <li>・底・岸の構造の多様化 (礫、捨石・石積み、乱杭などによるタナゴ類の生息環境担保)。</li> <li>・勾配・川幅の変化と蛇行の回復による抽水植物・浮葉植物などの水生植物の回復・保全・排水路の自然性。</li> <li>・水路畔の草地、木立 (ゲンジボタル等生息地、木陰・リターの供給)。</li> </ul> </div>

表 11 農村環境タイプ別 生物群集の特徴 (Cタイプ)

農村環境タイプ 生物群集の特徴	環境を構成する代表種と、生態系機能維持のための配慮事項
<p><b>Cタイプ</b> 自然堤防地形後背低地、排水路中下部</p> <p>原野性鳥類、タマシギ沈水植物（本来はコウホネなど浮葉植物が豊富）フラッシュ※が少ない排水路はタナゴ類の中核地</p> <p>サギ類のコロニーも本来本区分（または前区分）に生じる。</p>	 <p>左から：ナマズ、コイ、ギンブナ、モツゴ、ナマズ幼魚、ドブガイ（左）・流水に多いイシガイ（右）</p>
	 <p>左から：カゼトゲタナゴ、ニッポンバラタナゴ、タイリクバラタナゴ、ツチフキ幼魚、メダカ、タモロコ</p>
	 <p>左から：ミナミヌマエビ、スジエビ（少ない）、ヒメタニシ、モノアラガイ（左）・ヒメモノアラガイ（右）、サカマキガイ、スクミリンゴガイ</p>
	 <p>左から：オギ、マコモ・ツルヨシ・ウキヤガラ、ウキヤガラ、セズジイトンボ、コフキトンボ（幼虫）、カルガモ</p>
	<p><b>&lt;配慮事項&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流原野環境に類似するが、導水状況や湧水によって、水圏に自然堤防地形の生物群集が成立することがあり、これらの環境の維持。</li> <li>・夏季の水温上昇、水質悪化などの改善のために河畔の木立、礫底、抽水・浮葉植物群落の誘致が有用。</li> <li>・支線小水路などの合流点を自然化するなどで、増水時の逃避場所を担保。</li> <li>・原野性鳥類の生息地への配慮は次項参照。特にタマシギ、ヒクイナ、オオヨシキリなどが保全対象となる。</li> </ul>

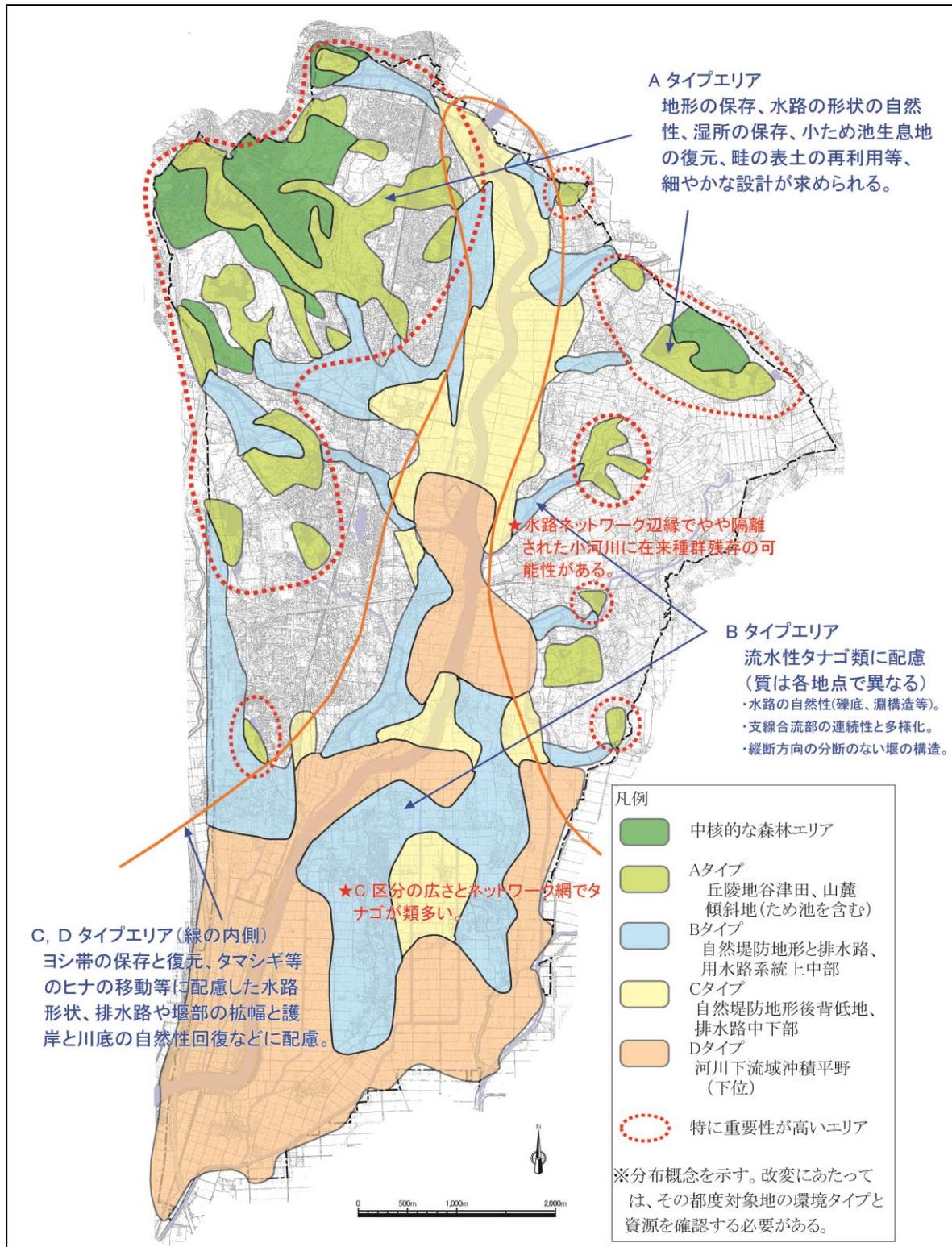
※フラッシュとは  
洪水などで水量が一時的に増加し、水路内に堆積した土砂などを下流側へ押し流してしまう事象を指します。

表 12 農村環境タイプ別 生物群集の特徴 (Dタイプ)

農村環境タイプ 生物群集の特徴	環境を構成する代表種と、生態系機能維持のための配慮事項
<p><b>Dタイプ</b> 河川下流域沖積平野 (下位)</p> <p>原野性鳥類、タマシギ、抽水植物、ヒシなどの低湿地の浮葉植物</p>	<p>※前タイプに加えて、最下流に特徴的な生物を示す。</p>  <p>左から：ハヤブサ、ゲンゴロウブナ(ヘラブナ)、浅い泥底を好むツチフキ、モツゴ、スゴモロコ、ハス</p> <p><b>&lt;配慮事項&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハヤブサなど原野性の猛禽類、タマシギ、ヒクイナなど湿地性の鳥類が生息できる環境の確保。</li> <li>・生産量大きい低湿地泥底の魚類群集（ニッポンバラタナゴ、ツチフキ、ナマズ、ギンブナ、コイ、モツゴ、モノアラガイ）が生息できる環境の維持。ツチフキ、モツゴが少なくなっている。</li> <li>・他にコフキトンボも下流側ため池的な利用がなされる排水路に特徴的。</li> </ul>

## ②農村環境タイプの分布

小都市における、農村環境タイプの分布を、図 17 に示します。



備考) 農村環境タイプの分布は、ため池や大きな水路が隣接する農地を対象としている。いずれのタイプにも該当しない市街地や一部の農地は白地で表記している。

「特に重要性が高いエリア」とは、水路、ため池や樹林地のあるエリアで多様な生物が生息できる環境を持つと考えられるエリアである。

図 17 農村環境タイプの分布

### ③生物多様性縮小の要因

農村環境タイプ別に、生物多様性縮小の要因について、表 13 に整理しました。

表 13 生物多様性縮小の要因

農村環境タイプ	生物多様性縮小の要因
<b>Aタイプ</b> 丘陵地谷津田 山麓傾斜地 (ため池を含む)	<p>水路改修、一斉改変などを伴うほ場整備（畦の表土等を再利用しない等も含めて）、畑地転換による湿所の極端な縮小、除草剤の使用、アメリカザリガニやスクミリンゴガイによる被害など（ドジョウ、マルタニシへの影響）。</p> <p>利便化は必要な面も多いが、改変の際の代償措置や影響緩和がされていない。</p> <p>ほ場と斜面が水路により分断されているため、谷津田性のカエル類やヒミズなどの移動経路が分断されている。</p> <p>三面コンクリート張り水路は、生物の生息環境としては厳しい（下流側で落差工下に、単純だが淵構造が設けられ、礫の堆積、玉石がみられ、魚類・貝類・水生昆虫等の生息が若干補われている状況）。</p>
<b>Bタイプ</b> 用水路系統上中部 自然堤防地形の排水路	<p>用水路で取水が制限され、フラッシュが起こりにくいため排水路の生物が比較的安定して生息できている。ただし、水深が浅く、30～40cm 程度の深みも確保できないため、タナゴ類は暗渠の陰に潜んでいる。</p> <p>オオアメンボなど自然性が求められる種もみられるが、護岸が垂直、植生カバー、抽水植物などの変化がないことなどから、ゲンジボタルなどは生息が難しい。</p> <p>取水部の形状による移動路分断。</p> <p>直線的で、出水時の逃避場所がほとんどない。周辺の排水路のネットワークが密であることから、かろうじてタナゴ類が維持されている（本来ヤリタナゴはさらに高密度で生息するもの）。</p> <p>岸の形状の多様化や、支線水路の合流点の単純化、排水路畔に自然的な木立がないことなどで、生息環境や景観の自然性が低下している。</p>
<b>Cタイプ</b> 自然堤防地形後背低地 (排水路中下部)	<p>本来、湿地性の鳥類の生息中核地とみられ、排水改良による畑地転換と区画整備で湿地帯はほぼ河川に集約されている。</p> <p>区画整理と畑地転換、水質汚染、農薬使用、単純な河川形状、水路合流点の落差等自然性の欠如など。</p> <p>過去と現在の農業施策が複雑に関連し、現在の生物相が形成されたとみられる。昔のミヤイリガイ撲滅運動に伴う用水路のコンクリート化や、現在の育苗箱殺虫剤などの農薬の影響が考えられる。</p>
<b>Dタイプ</b> 河川下流沖積平野	<p>水路改修による直線化に伴う、浅い泥底地や岸の変化の消失、洪水時の逃避場所の消失。転倒堰による水路の連続性の分断、底質の悪化。生息地の不安定化。</p> <p>余剰地、ヨシ帯の減少にともなう原野性生息種の生息環境悪化（ハヤブサ、キツネなど）。</p>

### (3)貴重な生物

小都市に生育、生息する貴重な植物及び動物を、表 14～表 16 に示します。

市内の農業生産基盤整備は概ね完了しています。このとき、余剰地や木立の整理、一部水路の直線化やコンクリート張りが行われました。一方、水系や河川周辺などには、一部に貴重な種を多数含む優れた生物群集が残され、地形の改変が小さい地区や整備が行われていない山麓・山間地区では、貴重な生物がみられます。



ツクシオオガヤツリ群落<sup>1)</sup>



コジイ群落<sup>1)</sup>

表 14 小都市に生育する貴重な植物等

種名など		環境省カテゴリー	福岡県カテゴリー	備考
群落	ツクシオオガヤツリ群落	RDB 群落委員会 カテゴリー：2	Ⅱ類	既存資料調査
	コジイ群落	RDB 群落委員会 カテゴリー：1	Ⅲ類	既存資料調査
維管束植物	ツクシオオガヤツリ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類	既存資料調査
	カワヂシャ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	現地調査
	ニッケイ	準絶滅危惧	—	現地調査
	ヒメタデ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	現地調査
	ヒノキ	—	準絶滅危惧	現地調査、植栽
	ウナギツカミ	—	準絶滅危惧	現地調査

◆環境省カテゴリー

【群落】

- 4：緊急に対策必要 緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する
- 3：対策必要 対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する
- 2：破壊の危惧 現在は保護対策が功を奏しているが、将来は破壊の危惧が大きい
- 1：要注意 当面、新たな対策は必要ない（監視必要）

【維管束植物】

- 絶滅：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
- 野生絶滅：飼育・栽培下でのみ存続している種
- 絶滅危惧ⅠA：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
- 絶滅危惧ⅠB：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
- 絶滅危惧Ⅱ：絶滅の危険が増大している種
- 準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種
- 情報不足：評価するだけの情報が不足している種

◆福岡県カテゴリー

【群落】

- Ⅰ類：緊急に対策必要 緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する
- Ⅱ類：対策必要 対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する
- Ⅲ類：破壊の危惧 現在は保護対策が功を奏しているが、将来は破壊の危惧が大きい
- Ⅳ類：要注意 当面、新たな対策は必要ない（監視必要）

【維管束植物】

- 保全対策依存種：保護対策や保全の努力がなされなければ、絶滅が危惧される種になる
- 他は、環境省カテゴリーに準じる

1)小郡の自然～身近な動物・植物～ 小都市史編集委員会 より引用

表 15 小郡市に生息する貴重な動物（その1）

種名など		環境省カテゴリー	福岡県カテゴリー	備考
哺乳類	カヤネズミ	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	ハタネズミ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	キツネ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	イタチ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
鳥類	チュウサギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	現地調査
	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	現地調査
	オオヨシキリ	—	準絶滅危惧	現地調査
	カンムリカイツブリ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	オオルリ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	オシドリ	情報不足	準絶滅危惧	既存資料調査
	タマシギ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	ハイタカ	準絶滅危惧	—	既存資料調査
	ヒクイナ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	既存資料調査
	アマサギ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	ノスリ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	ミコアイサ	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
は虫類	ニホンスッポン	情報不足	準絶滅危惧	現地調査
魚類	ゲンゴロウブナ	絶滅危惧ⅠB類	—	現地調査
	ヤリタナゴ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	現地調査
	アブラボテ	準絶滅危惧	—	現地調査
	カネヒラ	—	準絶滅危惧	現地調査
	ニッポンバラタナゴ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類	現地調査
	カゼトゲタナゴ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類	現地調査
	ハス	絶滅危惧Ⅱ類	—	現地調査
	ツチフキ	絶滅危惧Ⅱ類	—	現地調査
	スゴモロコ	準絶滅危惧	—	現地調査
	ヤマトシマドジョウ	絶滅危惧Ⅱ類	—	現地調査
	メダカ	絶滅危惧Ⅱ類	—	現地調査

◆環境省カテゴリー、福岡県カテゴリー共通

絶滅：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

野生絶滅：飼育・栽培下でのみ存続している種

絶滅危惧Ⅰ：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧ⅠA：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧ⅠB：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧Ⅱ：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種

情報不足：評価するだけの情報が不足している種

◆福岡県カテゴリー

保全対策依存種：保護対策や保全の努力がなされなければ、絶滅が危惧される種になる

他は、環境省カテゴリーに準じる

表 16 小郡市に生息する貴重な動物（その2）

	種名など	環境省カテゴリー	福岡県カテゴリー	備考
貝類	マルタニシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	現地調査
	モノアラガイ	準絶滅危惧	—	現地調査
	マシジミ	準絶滅危惧	—	現地調査
	カタヤマガイ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅	既存資料調査
	ミズゴマツボ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類	既存資料調査
	レンズヒラマキガイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類	既存資料調査
昆虫類	オオアメンボ	—	絶滅危惧Ⅱ類	現地調査
	オオウラギンスジヒョウモン	—	絶滅危惧Ⅰ類	既存資料調査
	オオウラギンヒョウモン	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	既存資料調査
	クロシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	既存資料調査
	シルビアシジミ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	既存資料調査
	タイワンツバメシジミ	絶滅危惧Ⅰ類 (本土亜種の場合)	絶滅危惧Ⅰ類	既存資料調査
	ヒカゲチョウ	—	絶滅危惧Ⅰ類	既存資料調査
	アカシジミ	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	ウラギンスジヒョウモン	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	ウラギンヒョウモン	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	ウラナミジャノメ	絶滅危惧Ⅱ類 (本土亜種の場合)	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	クモガタヒョウモン	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	コツバメ	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	コムラサキ	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	ジャノメチョウ	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	ツマグロキチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	ヒメキマダラセセリ	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	ミヤマセセリ	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	メスグロヒョウモン	—	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査
	オオチャバネセセリ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	オナガアゲハ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	ヒオドシチョウ	—	準絶滅危惧	既存資料調査
	オオクワガタ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	既存資料調査

◆環境省カテゴリー、福岡県カテゴリー共通

絶滅：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

野生絶滅：飼育・栽培下でのみ存続している種

絶滅危惧Ⅰ：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧ⅠA：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧ⅠB：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧Ⅱ：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種

情報不足：評価するだけの情報が不足している種

◆福岡県カテゴリー

保全対策依存種：保護対策や保全の努力がなされなければ、絶滅が危惧される種になる

他は、環境省カテゴリーに準じる

#### (4)外来生物

小郡市に生育、生息する外来生物を、表 17、表 18 に示します。

表 17 小郡市で確認された外来生物（植物）

区分	科	種	分類
水生植物	アリノトウグサ	オオフサモ	特定外来生物、現地調査
	トチカガミ	オオカナダモ	要注意外来生物、現地調査
	トチカガミ	コカナダモ	要注意外来生物、現地調査
陸生植物	アオイ	イチビ	要注意外来生物、現地調査
	キク	オオブタクサ	要注意外来生物、現地調査
	キク	オオアレチノギク	要注意外来生物、現地調査
	キク	ヒメムカシヨモギ	要注意外来生物、現地調査
	キク	セイタカアワダチソウ	要注意外来生物、現地調査
	キク	ヒメジョオン	要注意外来生物、現地調査
	キク	セイヨウタンポポ	要注意外来生物、現地調査
	キク	アメリカセンダングサ	要注意外来生物、現地調査
	アカバナ	コマツヨイグサ	要注意外来生物、現地調査
	トチカガミ	オオカナダモ	要注意外来生物、現地調査
	イネ	シナダレスズメガヤ	要注意外来生物、現地調査
	タデ	エゾノギンギン	要注意外来生物、現地調査
	アヤメ	キショウブ	要注意外来生物、現地調査
	イネ	オニウシノケグサ	要注意外来生物、現地調査
	イネ	ネズミムギ	要注意外来生物、現地調査
	カタバミ	ムラサキカタバミ	要注意外来生物、現地調査

表 18 小郡市で確認された外来生物（動物）

区分	科	種	分類
両生類	アカガエル	ウシガエル	特定外来生物、現地調査
は虫類	ヌマガメ	ミシシッピアカミミガメ	要注意外来生物、現地調査
魚類	コイ	タイリクバラタナゴ	要注意外来生物、現地調査
	サンフィッシュ	オオクチバス	特定外来生物、文献調査
	サンフィッシュ	ブルーギル	特定外来生物、文献調査
	タイワンドジョウ	ライギョ（カムルチー）	要注意外来生物、文献調査
貝類	リンゴガイ	スクミリンゴガイ	要注意外来生物、現地調査
	シジミ	タイワンシジミ	要注意外来生物、現地調査
甲殻類	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	要注意外来生物、現地調査

### 3. 生活環境

#### 3-1.地域指定

小都市には、国立公園、国定公園、県立自然公園、福岡県自然環境保全地域、福岡県自然海浜保全地区、国民保養温泉地の地域指定はありません。

#### 3-2.土地利用

小都市の土地利用を図 18 に示します。

本市の土地利用状況は、西鉄天神大牟田線に沿った市街地と、宝満川周辺の平坦部の農地、花立山や北部丘陵地の山林に大きく区分できます。

市域の中央部を流れる宝満川の右岸地域は市街地が集積し、左岸地域には農地が開けています。

地目別の構成の主なものとしては、田畑が約 50%、宅地は約 17%となっており、農地は年々減少しています。

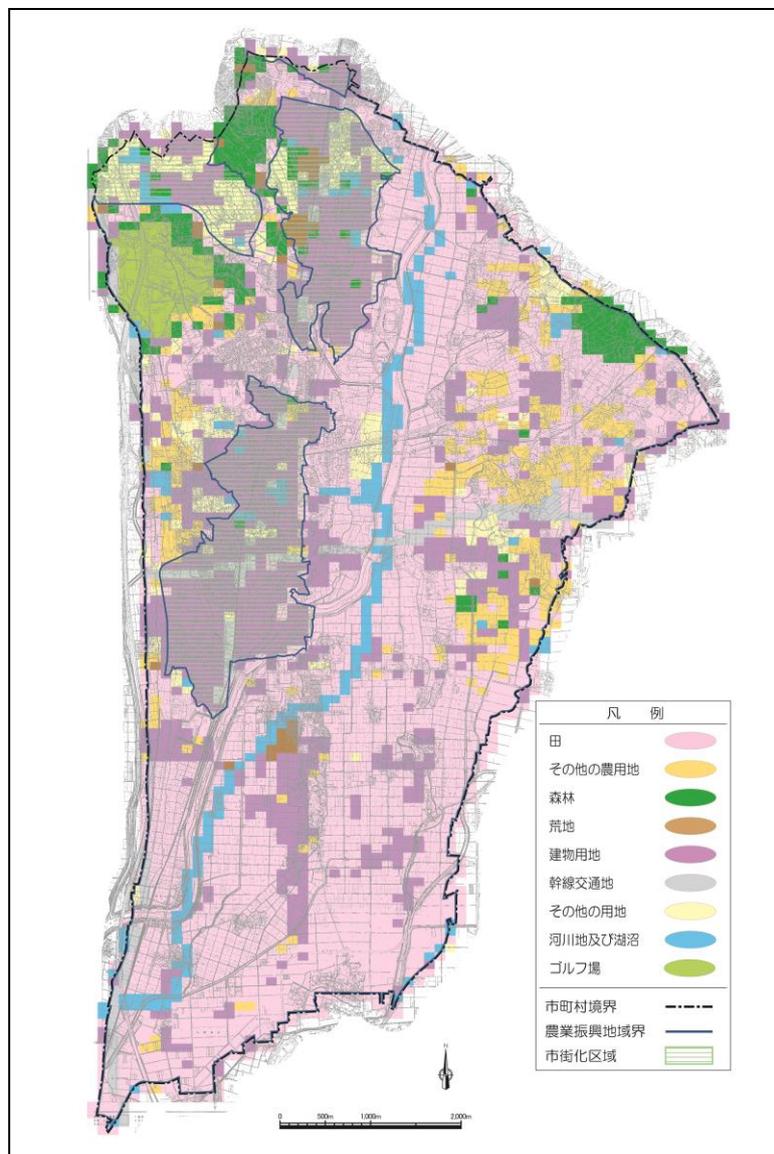


図 18 土地利用<sup>1)</sup>

1)国土数値情報ダウンロードサービスより作成  
([http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/jpgis\\_datalist.html](http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/jpgis_datalist.html))

### 3-3.人口と世帯数

小郡市の人口と世帯数を表 19、図 19 に示します。

本市の人口は平成 7 年に 5 万人に達し、小郡・筑紫野ニュータウン等の大規模な宅地造成などの社会的な要因も相まってその後も増加傾向にあり、平成 22 年には 58,499 人となっています。いわゆるベッドタウンとしての傾向がみられます。

世帯数も同様に増加傾向にあり、平成 22 年には 20,024 世帯となっています。

表 19 人口と世帯数<sup>1)</sup>

年次	人口 (人)			世帯数
	男	女		
平成 2 年	47,116	22,435	24,681	13,093
平成 7 年	50,612	24,032	26,580	15,258
平成 12 年	54,583	25,804	28,779	17,281
平成 17 年	57,481	27,082	30,399	18,831
平成 22 年	58,499	27,506	30,993	20,024

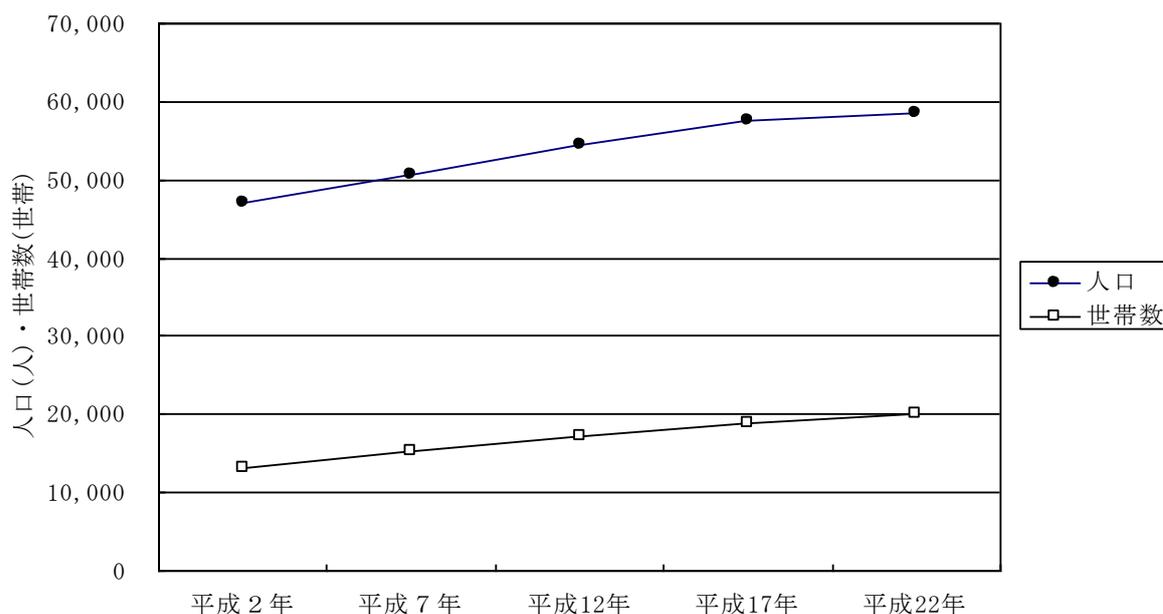


図 19 人口及び世帯数の推移<sup>1)</sup>

1)福岡県統計年鑑 市区町村別人口及び世帯数 (平成 2 年、平成 7 年、平成 12 年、平成 17 年、平成 22 年)より作成 (<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-2-2.html>)

### 3-4.上下水道

#### (1)上水道

小郡市の上水道の状況を表 20、図 20 に示します。

上水道は、平成 22 年度現在、17,679 戸、47,910 人に給水されており、普及率は 81%となっています。上水道の過去 10 年の普及率をみると、平成 13 年度は約 76%であり、その後 10 年間で約 5%の向上がみられます。

表 20 平成 22 年度の上水道普及状況<sup>1)</sup>

給水区域内数		給水数		普及率 (%)
世帯数(戸)	人口(人)	世帯数(戸)	人口(人)	
21,802	59,134	17,679	47,910	81

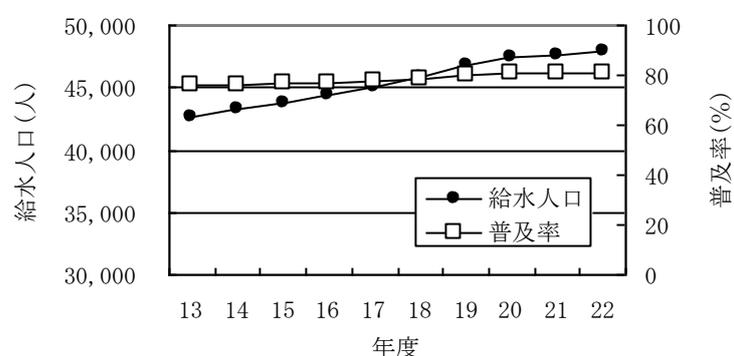


図 20 過去 10 年の給水状況 (平成 13 年度～平成 22 年度)<sup>1)</sup>

#### (2)下水道等

小郡市の下水道等の状況を表 21、図 21 に示します。

本市では、宝満川流域関連下水道事業により、小郡・筑紫野ニュータウン及びその周辺地域など市北部を処理区域として、宝満川浄化センターが供用を開始しています。また、小郡市中南部及び東部を処理区域として、筑後川中流右岸流域関連下水道事業が供用を開始しています。

平成 22 年度末における市域全体の整備済面積は 1,089.7ha で、全体計画面積 1,733.8ha に対する整備率は 62.9%となっています。また、処理区域内人口 52,432 人を行政区域内人口 59,132 人で除した下水道普及率は 88.7%となっています。

表 21 下水道の整備状況の推移 (平成 22 年度末現在)<sup>2)</sup>

面積 (ha)				人口 (人)		
市全域	計画区域	処理区域	整備率 (%)	市全域	処理区域	普及率 (%)
4,550	1,733.8	1,089.7	62.9	59,132	52,432	88.7

1)三井水道企業団 情報公開サイト 過去 10 年間の給水状況より作成  
(<http://www1.bbiq.jp/miisuido/jyouhou.html>)

2)小郡市ホームページ 都市建設部下水道課の整備状況より作成  
(<http://www.city.ogori.fukuoka.jp/content/root.jsp?cp=YTFIM3pfMjMwMTExODAyNDQ5NDA5>)

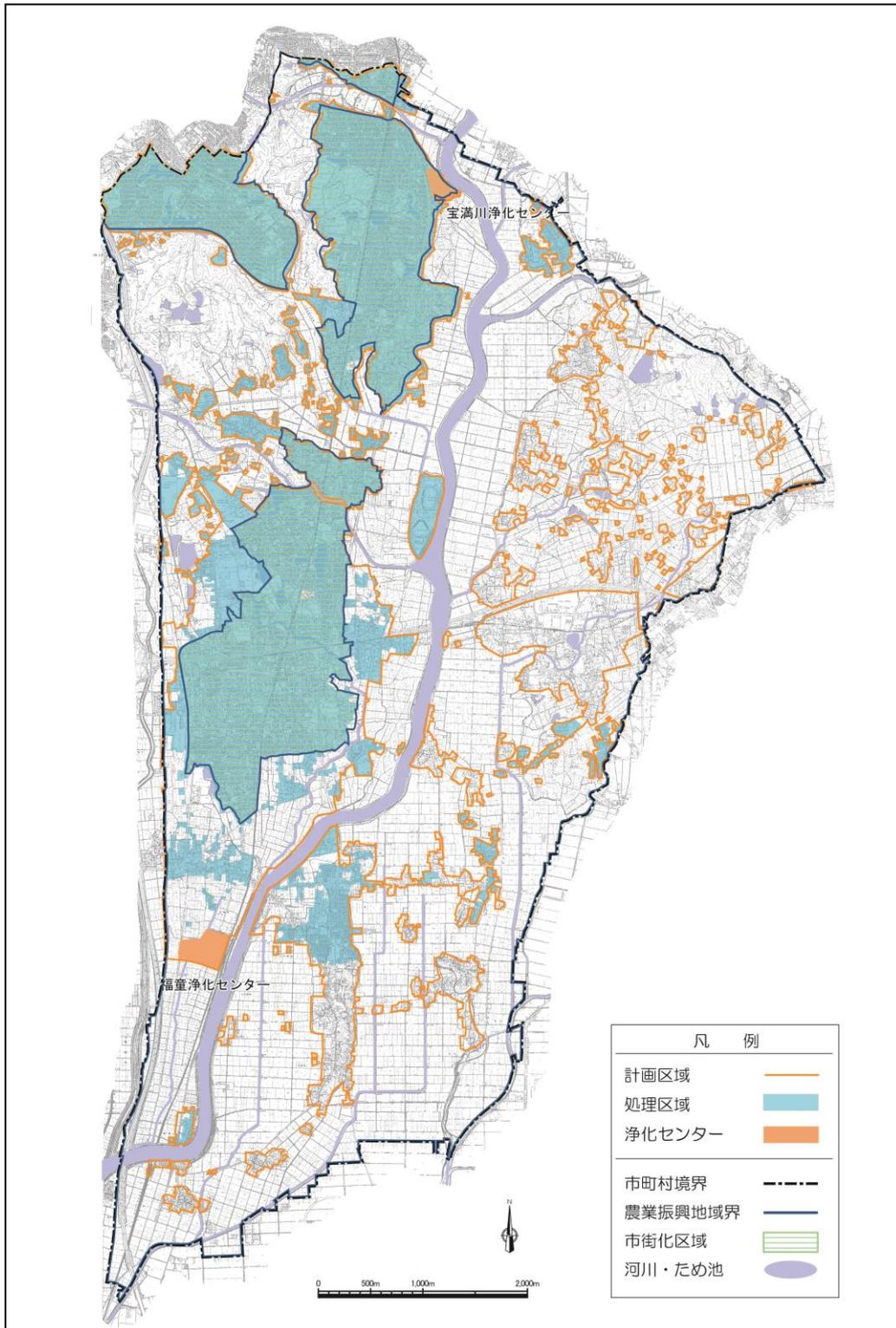


図 21 公共下水道の計画区域と処理区域<sup>1)</sup>

1)小郡市ホームページ 都市建設部下水道課の整備状況より作成  
 (<http://www.city.ogori.fukuoka.jp/content/root.jsp?cp=YTF1M3pfMjMwMTEwODAyNDQ5NDA5>)

### 3-5.交通網

小郡市の交通網を図 22 に示します。

主要道路についてみると、小郡市の中央部を大分自動車道が横断し、西側を九州自動車道が縦貫しているため、筑後小郡インターチェンジや鳥栖ジャンクションを利用しやすい状況にあります。また、市の北部では、筑紫野インターチェンジも利用されています。本市は、広域な自動車交通に関して、大変便利な状況といえます。また、国道 500 号が中央部を横断しているほか、国道 322 号が南東端を横切っています。主な県道としては、県道久留米筑紫野線があります。

鉄道についてみると、南北に西鉄天神大牟田線が、東西に甘木鉄道が通っています。西日本鉄道は、小郡駅をはじめとして市内に 7 つの駅があり、甘木鉄道は市内に 4 つの駅があります。

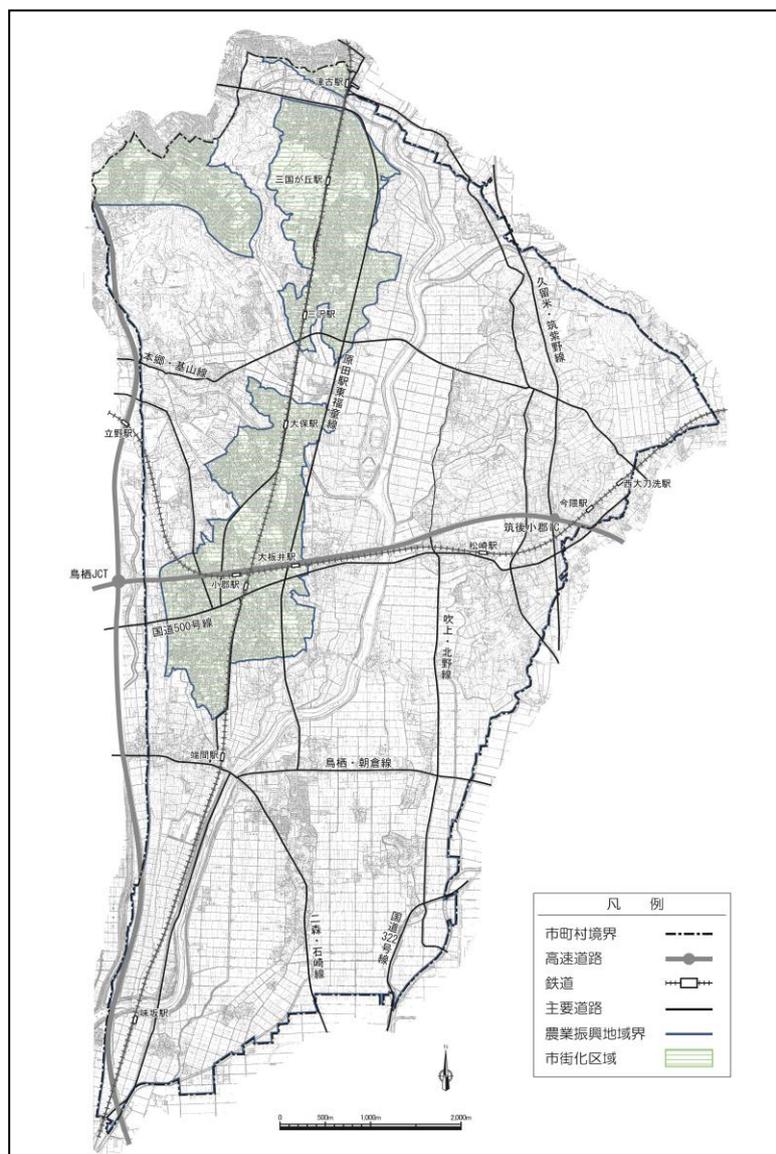


図 22 交通網

1)小郡市管内図 (1/25,000) より作成

### 3-6.産業構造

小郡市の産業別就業人口を表 22、図 23 に示します。

本市の産業 3 分類別就業者構成は、平成 17 年度現在、第一次産業が 1,259 人で全体の 4.8%、第二次産業が 4,619 人で全体の 17.8%、第三次産業が 20,094 人で全体の 77.4%となっています。

平成 2 年から平成 17 年にかけての 15 年間の産業別就業人口の推移をみると、第一次産業は 1,768 人から 1,259 人に減少、第二次産業は平成 7 年が多く 5,080 人でしたがその後 4,619 人に減少、第三次産業は 14,726 人から 20,094 人に増加しています。

表 22 産業別就業人口<sup>1)</sup>

年次	総計 (人)	第一次産業 (人)			第二次産業 (人)	第三次産業 (人)	
		農業	林業	水産業			
平成 2 年	21,303	1,768	1,765	-	3	4,809	14,726
平成 7 年	23,862	1,588	1,585	1	2	5,080	17,194
平成 12 年	24,945	1,352	1,348	3	1	4,995	18,598
平成 17 年	25,972	1,259	1,256	2	1	4,619	20,094

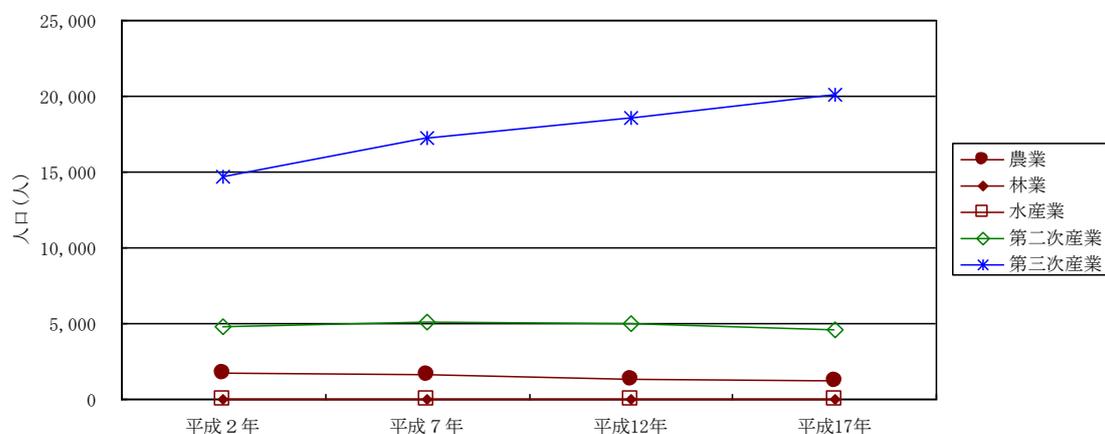


図 23 産業別就業人口の推移<sup>1)</sup>

1)福岡県統計年鑑 市区町村別産業大分類別 15 歳以上就業者数 (平成 2 年、平成 7 年、平成 12 年、平成 17 年)より作成(<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-2-11.html>)

### 3-7.レクリエーション

小郡市のレクリエーションに係る施設を表 23、図 24、表 24 に示します。

本市には、陸上競技場・野球場・テニスコート・多目的広場を備えた小郡運動公園、小郡市体育館・弓道場・勤労青少年体育センター、小郡カントリークラブなどの大規模なレクリエーション施設が存在します。

また、市内の各小中学校の体育施設も市民のレクリエーションに活用できるようになっており、たなばた地域運動広場、小郡地域運動広場、立石地域運動広場、東野地域運動広場といった中規模な施設も充実しています。

さらに、桜やつつじなど季節の花を楽しむことができる城山公園をはじめとして、市内には 108 箇所（都市公園 38 カ所・その他公園 70 カ所）の公園があり、憩いの場、健康づくりの場として利用されています。

表 23 スポーツ施設及び都市公園<sup>1)</sup>

	図面 番号	名 称	図面 番号	名 称
スポーツ 施設	1	小郡運動公園	5	小郡地域運動広場
	2	小郡市体育館、弓道場、勤労青少年体育センター	6	立石地域運動広場
	3	小郡カントリークラブ	7	東野地域運動広場
	4	たなばた地域運動広場		
都市公園	8	一ノ口近隣公園	27	鈴隈公園
	9	井上公園	28	清六橋公園
	10	井の浦近隣公園	29	第1号北浦緑地
	11	大原公園	30	寺福童公園
	12	大保公園	31	土取公園
	13	大保原公園	32	永浦公園
	14	大保道公園	33	鍋倉公園
	15	祇園公園	34	西島公園
	16	北浦公園	35	東町公園
	17	北中尾公園	36	福童公園
	18	北松尾口公園	37	二森公園
	19	北山公園	38	前伏公園
	20	今朝丸公園	39	松崎公園
	21	下岩田公園	40	三ツ枝公園
	22	生掛公園	41	杜のサクラ公園
	23	上田町公園	42	杜のふれあい公園
	24	勝負坂公園	43	横隈公園
	25	城山公園	44	力武公園
	26	人権のまちづくり ふれあい公園	45	脇田公園

1)小郡市ホームページ 都市建設部まちづくり推進課の情報より作成  
(<http://www.city.ogori.fukuoka.jp/content/root.jsp?cp=YTF1M3pfMjMwMTExODAyNDQ5NDA5>)

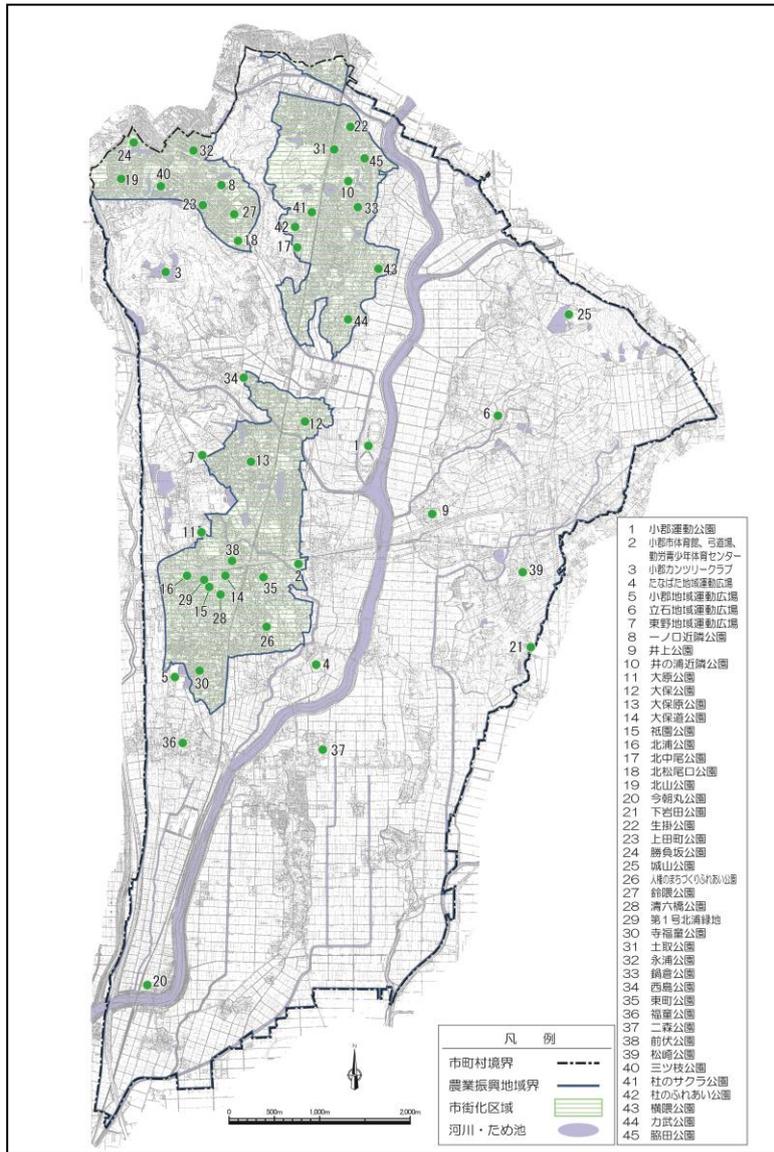


図 24 スポーツ施設及び都市公園の位置

表 24 その他公園一覧

公園名称			
カトリック幼稚園横児童遊園	権藤公園	小坂井子供広場	狸原公園
サンリアンⅡ公園	原口公園	上西本村公園	坪の内公園
みくいの東団地西公園	古賀公園	神田島公園	東野ハイツ公園
みくいの東団地東公園	高見公園	西島東公園	東野団地公園
みくいの東団地南公園	坂本公園	西牟田公園	豆田公園
みくに野団地古墳公園	笹牟田公園	大原台団地公園	道路公団公園
みくに野団地総合公園	三沢グリーンタウン南公園	大行事公園	内牟田公園
ロフティ小郡公園	三沢グリーンタウン北公園	大崎集会所横公園	八重洲グリーンハイツ南公園
横隈山遺跡公園	寺ノ前公園	大崎団地南公園	八重洲グリーンハイツ北公園
横隈山古墳公園	寺小路公園	大崎団地北公園	宝城団地公園
横隈出口公園	寺福堂A住宅遊園地	大板井2区西公園	宝城団地公園西園
下内畑公園	寺福堂B住宅遊園地	大板井2区東公園	宝城団地公民館横公園
開畑道西公園	小郡ニューハイツ公園	大板井2区南公園	宝城南公園
干潟工業団地南公園	小郡パークタウン東公園	大板井南児童遊園	宝城北公園
干潟工業団地北公園	小郡パークタウン南公園	大板井北児童遊園	北牟田公園
干潟児童遊園	小郡パークタウン北公園	大保グリーンタウン公園	薬師田公園
空前公園	小郡南団地公園	大保団地公園	
熊崎団地公園	小善風公園	沢ノ丘住宅遊園地	

### 3-8.伝統行事等

小郡市の伝統行事等の一覧を表 25 に示します。

本市では、古くから行われている伝統行事、イベントが四季を通じて行われ、市民を中心として多くの人々に親しまれています。

表 25 伝統行事等の一覧

名 称	開催時期	備 考
火渡り	1月17日	如意輪寺
初午祭	2月初午	黒岩稲荷神社
粥占い	3月11日	大中臣神社
権現さん祭	3月15日	日方神社
桜まつり	3月下旬～4月上旬	松崎桜馬場
将軍藤まつり	4月中旬～5月上旬	大中臣神社
祇園祭	7月下旬	
茅の輪くぐり	7月31日	御勢大霊石神社
七夕神社夏祭り	8月7日	七夕神社
市民夏祭り	8月下旬	
人形注連	10月第3日曜	老松神社
早馬祭	11月第3日曜	隼鷹神社

### 3-9.文化財、史跡等

小郡市の文化財、史跡等を表 26、図 25 に示します。

本市の歴史は古く、縄文期以降の数多くの遺跡・古墳などが散在し、また、博多へ通じる交通の要衝であったため、多くの文化財、史跡が存在します。

国指定として小郡官衙遺跡群、県指定として三沢遺跡、花立山穴観音古墳などがあり、市花として代表される福童の將軍藤も県指定天然記念物です。市指定として薩摩街道にあたる松崎宿の史跡・建造物のほか、早馬祭など古くから伝わる伝統行事も無形文化財となっています。

表 26 文化財、史跡等<sup>1)</sup>

区 分		名 称
国指定	史跡	小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡・上岩田遺跡
	重要文化財	小郡若山遺跡土坑出土品
県指定	史跡	三沢遺跡
		花立山穴観音古墳
	考古資料	榎（たるき）先瓦
	彫刻	木造如意輪観音立像
	天然記念物	福童の將軍藤
市指定	史跡	松崎宿南構口・北構口
	考古	上岩田五重石塔
	彫刻	西島如来石像
	建造物	大中臣神社楼門
		旧松崎旅籠油屋
	天然記念物	天忍穂耳神社境内大クス
		隼鷹神社境内クスノキ群
	無形民俗	早馬祭
	無形	上岩田注連ねり（人形じめ）
有形文化財	水車巡路道詳覧図 付 台帳水車	
その他		高松凌雲顕彰碑
		名馬池月の塚
		七夕神社（媛社神社）
		若宮八幡宮
		老松宮（牽牛社）
		乙隈境石
		三国境石
		御勢大霊石神社

1)小郡市ホームページ 教育部文化財課・小郡市観光協会の情報より作成  
(<http://www.city.ogori.fukuoka.jp/content/root.jsp?cp=YTF1M3pfMjMwMTExODAyNDQ5NDA5>)

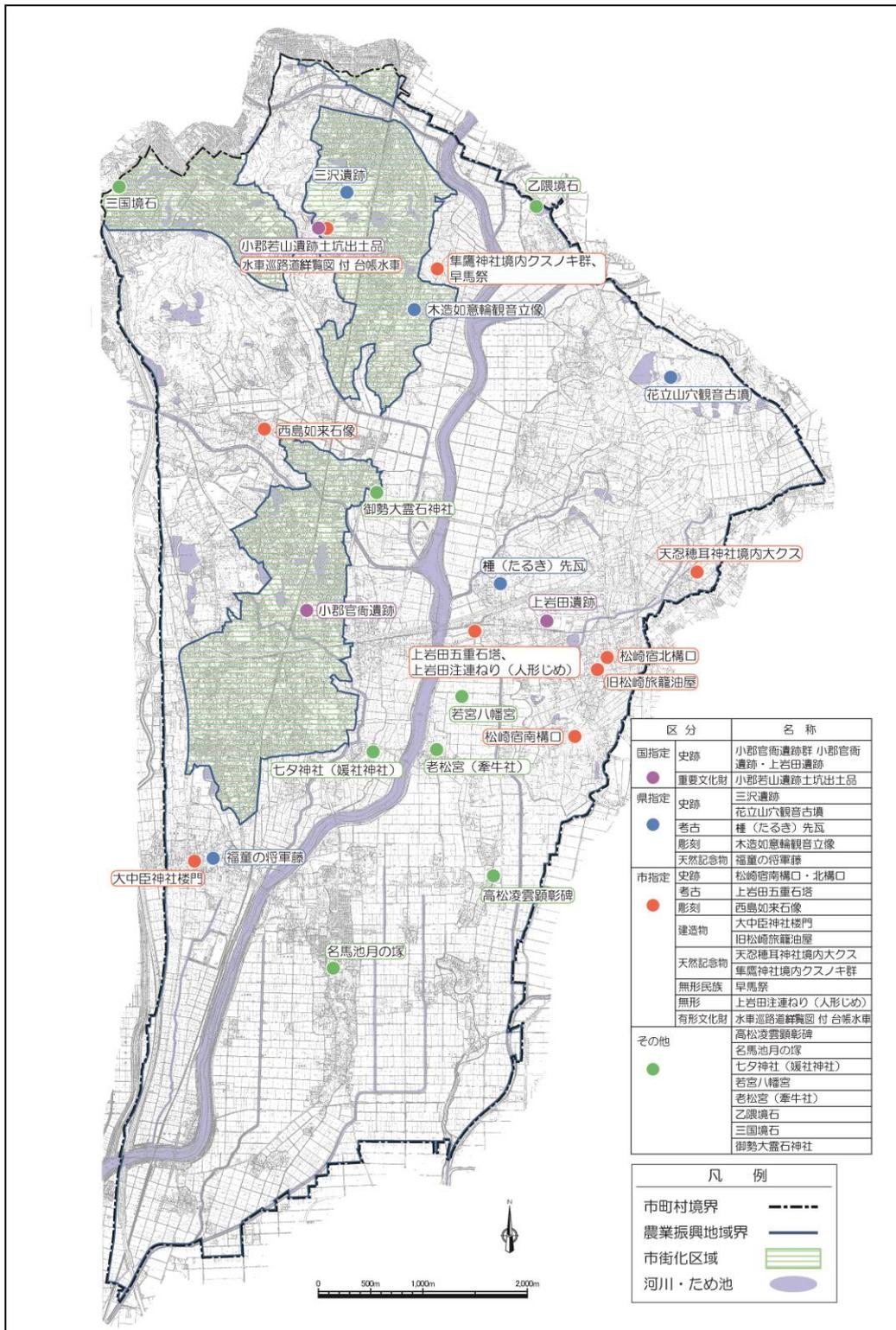


図 25 文化財、史跡の分布状況<sup>1)</sup>

1)小郡市ホームページ 教育部文化財課・小郡市観光協会の情報より作成  
<http://www.city.ogori.fukuoka.jp/content/root.jsp?cp=YTF1M3pfMjMwMTExODAyNDQ5NDQ5>

## 4. 生産環境

### 4-1. 農地

小郡市の主要作物別の耕地面積を表 27 に示します。

平成 22 年現在の耕地面積は 1,144ha で、本市面積の約 25%を占めます。耕地のほとんどが田となっています。田、畑ともに、面積は年々減少傾向にあります。

次に、耕作放棄地面積を表 28 に示します。

耕作放棄地は平成 2 年には 6ha であったが、平成 22 年には 14ha、耕地に対する割合は 1.2%となっています。

本市では、図 26 に示す農業振興地域を指定し、農業の発展に必要な措置が集中的に行なわれています。

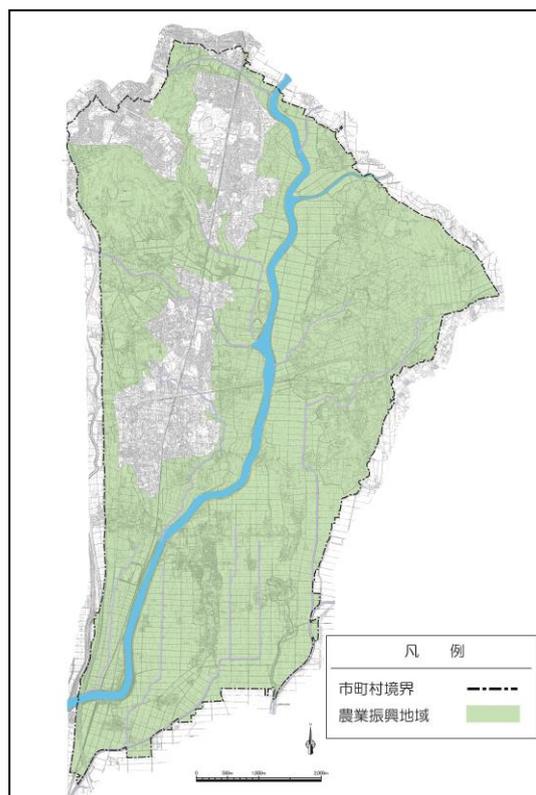


図 26 農業振興地域

表 27 主要作物別の耕地面積（販売農家）<sup>1)</sup>

年次	総数 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地 (ha)
平成 2 年	1,940	1,792	111	38
平成 7 年	1,824	1,683	113	28
平成12年	1,783	1,648	82	53
平成17年	1,724	1,632	83	8
平成22年	1,144	1,039	54	52

表 28 耕作放棄地面積（販売農家）<sup>1)</sup>

年次	耕作放棄地面積 (ha)	耕地に対する割合 (%)
平成 2 年	6	0.3
平成 7 年	10	0.5
平成12年	17	0.9
平成17年	11	0.6
平成22年	14	1.2

1) 平成 7 年、平成 12 年、平成 17 年は福岡県統計年鑑 市区町村別専・兼別農家数、世帯員数、就業人口、経営耕地面積及び規模別農家数より作成(<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-6-1.html>)  
平成 22 年は、世界農林センサス結果より作成(<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/nourin.html>)  
いずれも、販売農家の統計値を採用。

## 4-2. 農家

小郡市の農家人口等を表 29～表 31 に示します。

本市の農家人口は経年的に減少しており、平成 22 年には平成 2 年の約 45%に減少し、1,124 人となっています。

農家戸数についてみると、専業農家数は 200 戸前後でほぼ横這いですが、兼業農家数の減少が大きく、平成 22 年には、平成 2 年の約 34%に減少し、454 戸となっています。

経営規模別の農家数をみると、自給的農家はいったん減少しましたが平成 17 年に増加に転じています。一方、販売農家はどの規模も概ね横這いか減少傾向にあります。

表 29 農家人口の推移<sup>1)</sup>

年次	農家人口(人)		
		男	女
平成 2 年	2,522	1,025	1,497
平成 7 年	2,070	894	1,176
平成12年	1,813	848	965
平成17年	1,594	768	826
平成22年	1,124	576	548

表 30 専業・兼業別農家戸数の推移<sup>1)</sup>

年次	総農家数 (戸)	専業	兼業		自給的農家数 (戸) <sup>*</sup>	
			第 1 種	第 2 種		
平成 2 年	1,583	235	1,348	318	1,030	-
平成 7 年	1,407	207	1,200	294	906	-
平成12年	1,245	202	909	213	696	134
平成17年	1,164	195	744	105	639	225
平成22年	920	191	454	100	354	275

※：平成12年以降は自給的農家数を個別に集計

表 31 経営規模別農家数の推移<sup>1)</sup>

年次	総農家数 (戸)	自給的農家 (戸)	販売農家(戸)						
			例外規定 0.3ha未満	0.3ha～ 0.5ha	0.5ha～ 1.0ha	1.0ha～ 1.5ha	1.5ha～ 2.0ha	2.0ha～ 3.0ha	3.0ha～
平成 2 年	1,583	176	8	165	402	339	238	170	85
平成 7 年	1,407	142	4	145	366	295	200	163	92
平成12年	1,245	134	2	111	324	250	165	142	117
平成17年	1,164	225	4	79	241	201	150	125	139
平成22年	920	275	10	80	199	123	76	74	83

1)福岡県統計年鑑 市区町村別専・兼別農家数、世帯員数、就業人口、経営耕地面積及び規模別農家数(平成 2 年、平成 7 年、平成 12 年、平成 17 年、平成 22 年)より作成  
(<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-6-1.html>)

### 4-3.農業生産

小郡市の農業生産額を図 27 に示します。

本市の農業産出額の総額は、平成 7 年度をピークに、それ以降は減少しています。

内訳では米がもっとも多く、全体に占める割合は平成 7 年まで約 40%でしたが、平成 12 年では 26%、平成 17 年では 24%と減少しています。麦、野菜、花き等は概ね横這いとなっています。

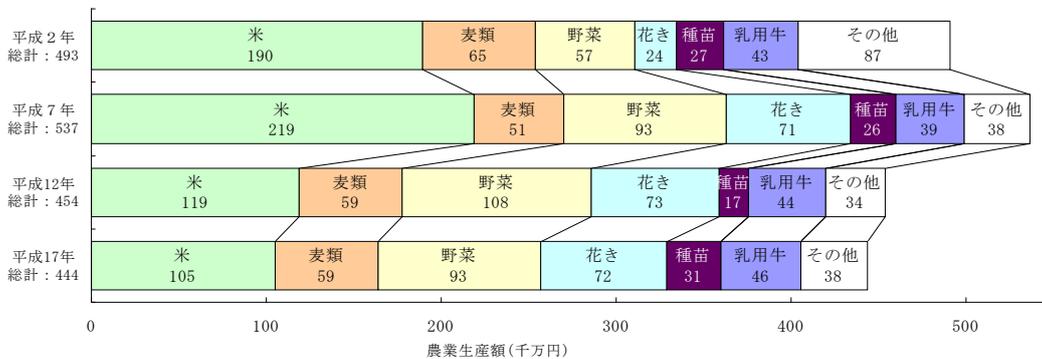


図 27 農業生産額<sup>1)</sup>

### 4-4.生産基盤の整備状況及び計画

ほ場整備は大半が終了していますが、法面、水路、農道などの整備事業を要する未整備地区も一部にあります。

平成 23 年度以降における農業農村整備計画の概要を表 32 に、対応する農業生産基盤の整備状況を図 28 に示します。利水環境の管理が中心です。

表 32 農業農村整備事業管理計画の概要

事業名	地区		主要工事概要	実施スケジュール (平成)					予定工期	
	地区名	事業番号 <sup>※</sup>		23	24	25	26	27		28
(戸)水利一般	両筑平野二期	A-3	用水路工84.5km							H27~H46
(戸)県基幹水利保全	床島	A-1	樋管1式							H23~H23
(戸)県基幹水利保全	両筑平野	A-2	頭首工5ヶ所 揚水機場14ヶ所							H24~H30
(自)県ため池一般	丸山	E-1	溜堤172m							H21~H24
(自)県ため池一般	淵田	E-2	溜堤60m							H22~H24
(自)県ため池一般	西島	E-3	溜堤1式							H24~H28
(自)県河川応急	鳥飼	E-6	水門4基							H26~H28
(自)県河川応急	甘木I期	E-7	堰撤去9ヶ所							H26~H31
(自)県河川応急	稲吉二期	E-8	頭首工1式							H26~H28

※：図中の記号と一致する（但し、A-2・A-3は市全域、A-1・E-6・E-7は市外地であり、図示していない）。

1)福岡県統計年鑑 市町村別農業産出額（平成 2 年、平成 7 年、平成 12 年、平成 17 年）より作成  
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-6-2.html>

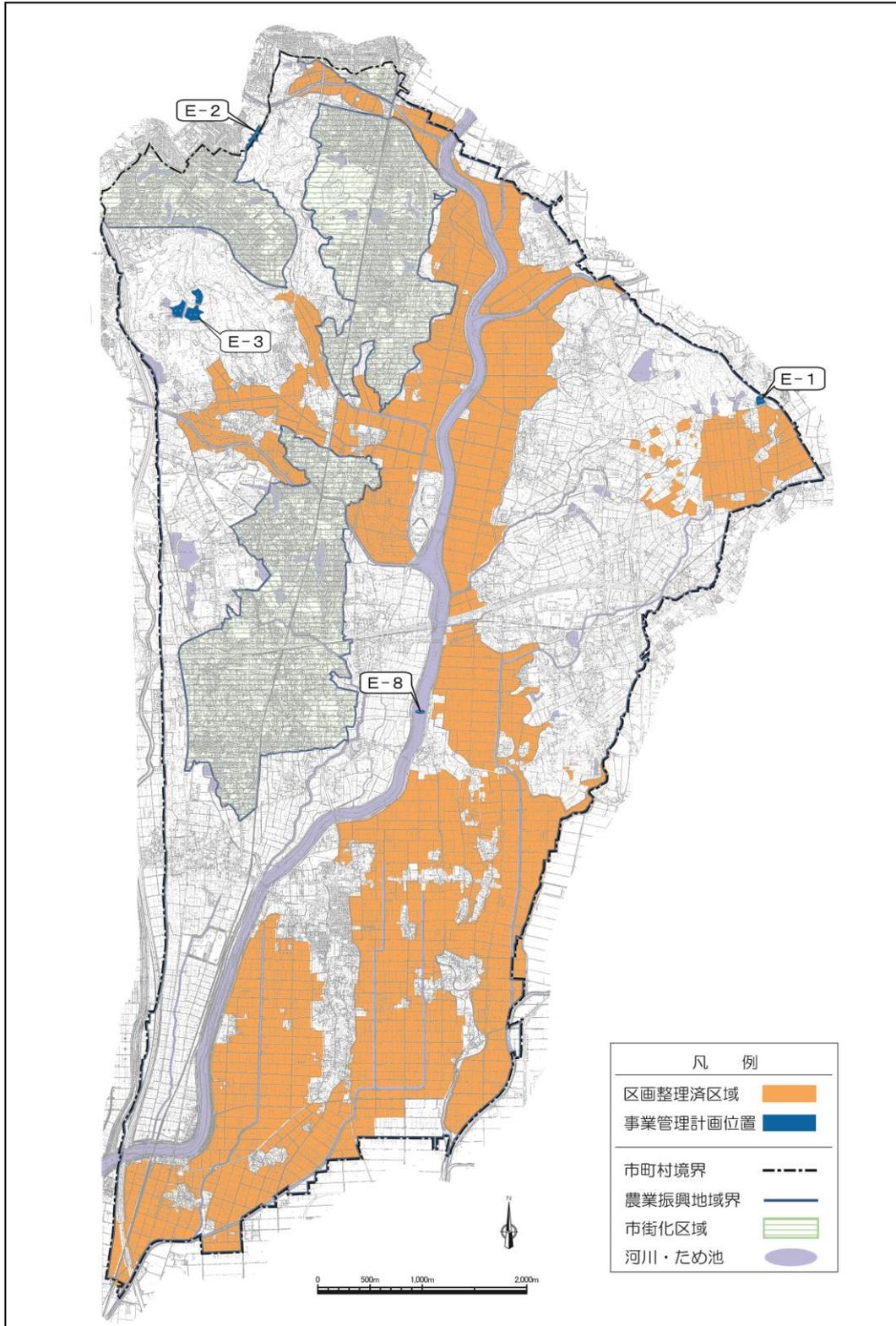


図 28 農業生産基盤の整備状況及び計画<sup>1)</sup>

1)平成 23 年度事業管理計画図（小郡市資料）より作成

#### 4-5.農地・水保全管理支払交付金事業

従来の、農地・水・環境保全向上対策事業から農地・水保全管理支払交付金事業へ、事業名及び事業内容が変更されました（農林水産省）。具体的な取り組みを、表 33、表 34 及び図 29 に示します。

現在 21 団体が、共同活動支援事業として、生態系保全や景観形成などに、また、それらのうち 7 団体が向上活動支援事業として、農業用施設の長寿命化にそれぞれ取り組んでおり、地域ぐるみでの効果の高い共同活動等が支援されています。

表 33 共同活動支援事業の具体的な取り組み

組織名称	事業面積			主な取り組み概要	
	計(a)	田(a)	畑(a)	基礎部分	誘導部分
					農村環境向上対策（主な取り組み内容）
1 古飯環境保全向上推進協議会	5,180	5,158	22	各施設において 点検（全施設）、草刈り（農用地・水路・ため池・農道）、泥上げ（開水路・ため池・パイプライン・ため池・農道）、通水試験（開水路・パイプライン）、コンクリートの目地詰め（開水路・ため池）、遊休農地発生防止の対策（農用地）など、全ての組織が全項目を実施している（事業要件として必須）。	各施設において 生態系保全→子供たちによる、水路の生き物の調査 景観形成→プランター栽培の花を、水路横に設置、空き缶拾いの実施
2 里山ネットワークひかた	13,221	10,231	2,990		生態系保全→ため池の外來種（ブラックバスなど）の駆除 景観形成→チューリップの植栽
3 平方環境を守る会	5,746	5,382	364		景観形成→ポピー・コスモス・ヒマワリ・ルピナスの植栽、空き缶拾いの実施
4 大板井1区自然環境を守る会	3,723	3,654	69		景観形成→ポピーの植栽、空き缶拾いの実施
5 吹上農地・水・環境保全向上対策協議会	4,684	4,684	0		景観形成→ヒガンバナの植栽、空き缶拾いの実施
6 光行水土里の会	4,843	4,649	194		景観形成→ポピー・コスモス・ヒマワリ・ルピナス・チューリップ・スイセンの植栽、空き缶拾いの実施
7 下岩田環境保全組合	10,935	8,079	2,856		景観形成→コスモスの植栽、空き缶拾いの実施
8 稲吉地域資源保全組合	2,900	2,643	257		生態系保全→ホタルの育成（育成環境の拡大）、啓発看板の設置
9 花立環境保全組合	6,658	5,068	1,590		景観形成→コスモス・サクラの植栽
10 美農里八坂農地・水・環境保全会	11,113	10,876	237		生態系保全→ジミの育成、啓発看板の設置 景観形成→ヒガンバナ・スイセンの植栽、空き缶拾いの実施
11 ニタ環境を守る会	6,565	6,327	238		景観形成→コスモスの植栽、空き缶拾いの実施
12 鱒坂西流地域環境を守る会	18,446	17,312	1,134		景観形成→ヒガンバナ・キンセンカ・ポピーの植栽、空き缶拾いの実施
13 西島みどりを守る会	4,731	4,547	184		景観形成→スカシユリの植栽、空き缶拾いの実施
14 愛花川倶楽部	4,538	4,376	162		景観形成→ポンプ小屋壁面への落書き防止対策（子供の絵画）、啓発看板の設置、ハンジー等の植栽、空き缶拾いの実施
15 津古を美しくする会	2,333	2,193	140		景観形成→マリーゴールドの植栽、空き缶拾いの実施
16 二森環境保全組合	4,538	4,434	104		景観形成→子供たちによる啓発ポスター作成、啓発看板の設置、空き缶拾いの実施
17 力武環境保全組合	5,939	5,911	28		景観形成→ヒマワリの植栽、空き缶拾いの実施
18 三沢環境を守る会	3,973	3,720	253		景観形成→サツマイモの植栽及び子供たちによる収穫（基礎部分の遊休農地発生防止対策とのセット）、空き缶拾いの実施
19 八丁島環境保全協議会	2,022	2,022	0		生態系保全→田の生き物の調査 景観形成→清掃活動
20 横隈環境を守る会	4,640	4,093	547		景観形成→コスモスの植栽、空き缶拾いの実施
21 佐野古水と環境保全会	4,387	3,443	944		景観形成→コスモスの植栽、空き缶拾いの実施

※：番号は、次頁の図中の位置番号と一致します。

表 34 向上活動支援事業の具体的な取り組み（平成 23 年度から始まった事業）

組織名称	事業面積			主な取り組み概要	事業期間
	計(a)	田(a)	畑(a)		
1 古飯環境保全向上推進協議会	5,180	5,158	22	ゲートの改修、ポンプ場の補修、農道舗装	H26まで
3 平方環境を守る会	5,746	5,382	364	ポンプの補修、頭首工の補修等	H26まで
7 下岩田環境保全組合	10,935	8,079	2,856	農道舗装、水路のコンクリート化、ため池補修	H27まで
13 西島みどりを守る会	4,731	4,547	184	素掘り水路のコンクリート化	H27まで
18 三沢環境を守る会	3,973	3,720	253	素掘り水路のコンクリート化	H27まで
20 横隈環境を守る会	4,640	4,093	547	既設水路の改修	H27まで
21 佐野古水と環境保全会	4,387	3,443	944	ゲートの改修、農道舗装、水路底盤のコンクリート化、水路の嵩上げ	H27まで

※：番号は、次頁の図中の位置番号と一致します。

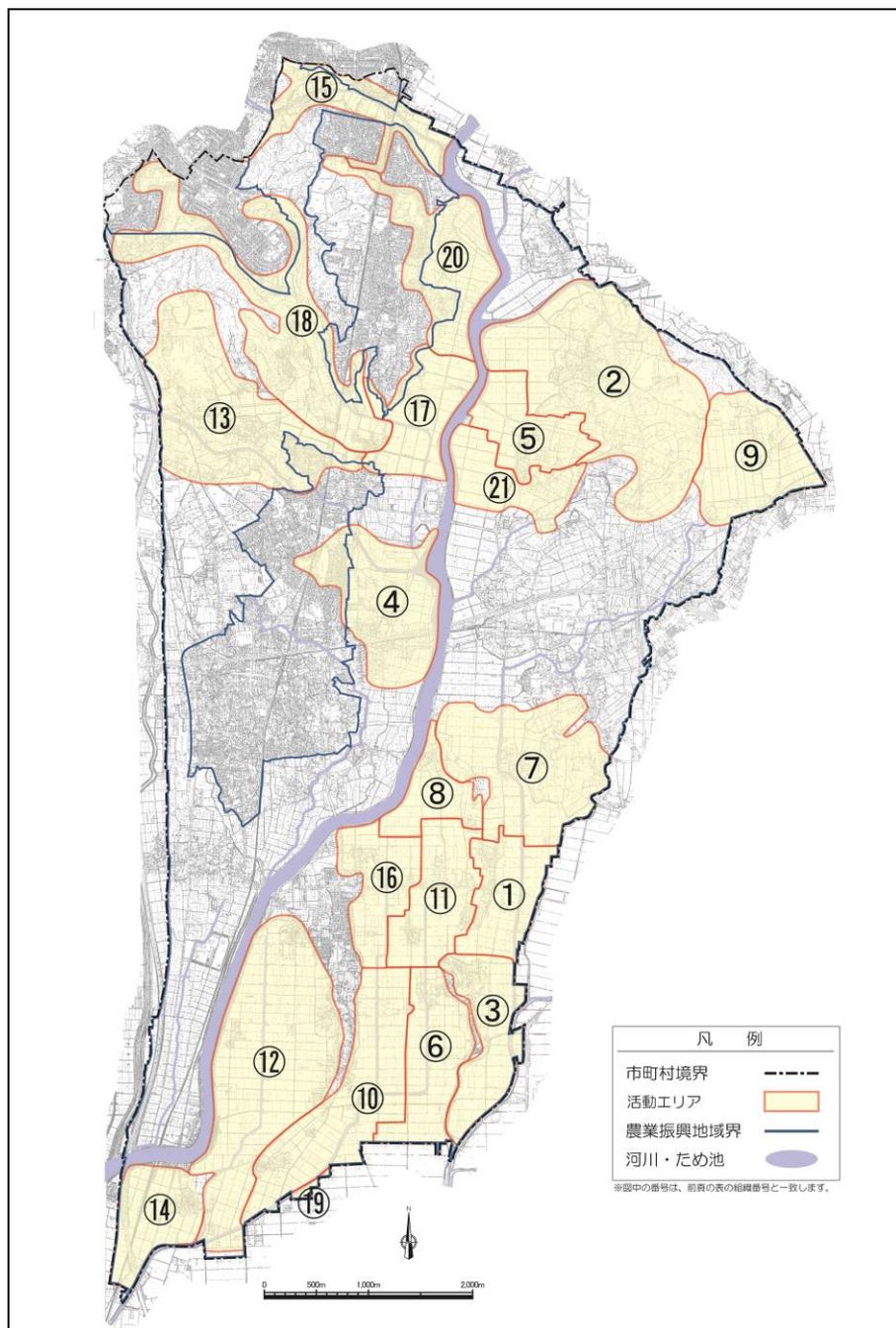


図 29 農地・水保全管理支払交付金事業の活動場所

## 5. 農村景観等

特筆すべき農村景観を、以下に示します。



たわわに実る稲が一面に広がり、黄金色に輝いています。



濃い緑の農作物が一面に広がり、視覚的にやすらぎを与えてくれます。



人工構造物のない、昔ながらの水田環境は、いきものの生息環境としても豊かであり、人にも安らぎを与えます。



ヤギが、のどかなひとときを過ごす姿をみると、人もなごみます。



白い樽のようなものは、良質な飼料を稲からつくるためのホールクロップサイレージ。この時期の風物詩です。



ガードレールに干された稲。これも、稲刈りの時期にみられるのどかな風景です。



馬風流（ばぶりゅう）と呼ばれる水神信仰の一種です。藁に川魚や塩、米などを入れ、川の神に捧げる風習が今でも息づいています。



水路と農耕地が土手によってつながった場所です。最近では、なかなかみられなくなりました。



城山公園の風景です。水辺と花立山からなる景観は四季折々の情景をみせるとともに、市民の憩いの場として利用されています。



農業用のため池ですが、周囲には樹木が茂り、水と緑の景観をつくりあげています。



宝満川の堰です。豊かな水の流れる感じるとともに、河川敷に整備された遊歩道は、市民の憩いの場となっています。



彼岸花・水仙ロードと名付けられたこの道は、四季の変化に応じた様々な情景をみせてくれることでしょう。



一面に広がるコスモス畑。見る人がふと足をとめ、その美しさから癒されることでしょう。



立石小学校「みどりの小川」。緑に囲まれた水辺は、春から夏にかけて、自然とのふれあいの場所としてにぎわうでしょう。



立石地区の麦畑。気温も上がり始め、つぼみや花が咲き乱れる時期です。  
美しい花と優しい香りが人を癒してくれます。



宝満川河川敷。田の緑、畔の菜の花の黄、奥にみえる山並みとスカイラインが、春らしいコントラストを生み出し、すばらしい景色となっています。



畔に広がる菜の花畑。一面に広がる黄色い絨毯は、春の訪れを感じさせます。



田の畔に広がる野草。花をつけ、生命の息吹を感じます。



のどかに広がる田園風景。畑の緑と、畔の菜の花と、どこまでも見通しのよい景色は水田地帯ならではのものです。

## 第2節 上位計画・関連計画

福岡県及び小都市には、環境保全・創造に関する計画、条例、指針が策定されています。その中で、特に農村環境の保全・創造に関連する主要な計画を以下に整理しました。

### 1. 福岡県

#### ■ふくおか新世紀計画（平成9年11月）

基本構想の目標年次を平成22年度として「共創の京(みやこ)」を将来像とし、個人や地域、さらには行政や産業など様々な分野において「個性」と「創造性」を発揮し、また、相互に「交流」、「連携」することにより、新たな時代に「自立」する「ふくおか」を共に創るため、これまでの社会経済システムを根本から見直し、超えていくことを目指す県の最上位計画です。

#### ■福岡県環境総合基本計画－農業・農村の持続的発展、県民の健康で豊かな食生活を目指して－（平成15年3月）

「うるおいのある、調和のとれた環境の創造」を目指し、地球環境の望ましいあり方や環境保全対策の基本方向を明らかにし、県民・事業者の協力を得ながら、望ましい環境の実現を図るための総合的な計画です。

#### ■福岡県農業・農村振興条例（平成13年7月）

福岡県の農業及び農村を県民の貴重な財源としてはぐくみ、次代に引き継ぐとともに、その進むべき道を明らかにするために制定された条例です。

#### ■福岡県農業・農村振興基本計画（平成18年6月）

「産業」のほか、「地域・環境」と「食料・暮らし」の三つの視点から、ふくおかの農業の目指す方向を掲げた計画です。

#### ■福岡県農業農村整備環境対策指針（平成10年3月）

福岡県環境総合基本計画を上位計画として、市町村における農業農村環境計画づくりのためのモデル計画とすべく作成された指針です。自然との共生と潤いとゆとりある農業農村の創造により、「人と自然にやさしい農業農村」を目指します。

## 2. 小郡市

### ■第5次小郡市総合振興計画

これからの時代の大きな変化に的確に対応していくため、これまでのまちづくりの成果を活かし、課題の改善・解決を図るとともに、新たな市政の目標とその実現に向けた方策を明確化し、計画的かつ持続的なまちづくりを推進するための本市の根幹となる長期的な指針として策定した計画です。

農業に関しては、基本目標を「農業の持続的発展のため、土地利用との調整を図りながら農地の集約化を進めていきます。また、安定的な農業経営を行える条件を整備し、担い手を育成するとともに、食の安全に配慮した自然循環型の農業を目指します。」と定め、「農業基盤の整備」、「農業経営の育成・確保」、「生産・流通対策の推進」、「調和型農業の推進」、「農村環境の整備」の推進を掲げています。

### ■第2次小郡市国土利用計画

国土利用計画法第8条の規定に基づき、長期にわたり安定した土地利用を確保することを目的として、小郡市の区域内における国土利用に関して基本的事項を定めるものです。本計画は、市の発展と自然環境を活かした健康的で文化的な生活環境の確保を図るための、将来における市土の計画的・合理的土地利用の指針となります。

農地に係る市土利用の基本方針として、「農地と里山の保全」を掲げ、「農業振興地域制度や農地転用許可制度の適正な運用により、優良農地の確保を図り、極力保全する」と掲げています。

### ■小郡市都市計画マスタープラン〔第2版〕—個々を育み共に創る生活緑園都市—

(平成19年3月)

都市計画法第18条の2に規定されている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことです。概ね20年後を目標とし、都市づくりの理念、目指す都市像に応じた都市整備の方針、その実現化の方策等を検討して、本市における今後のまちづくりの方針を示すものです。

農業に関しては、田園部の土地利用方針として、「土地改良区においてほ場整備等の基盤整備を行った農地については、集团的優良農地として保全を図ります」と掲げています。

### ■農業振興地域整備計画

優良農地の確保・保全のため、「農地法」による農地転用許可制度と併せ、「農業振興地域の整備に関する法律（農振法）」に基づく農業振興地域制度が設けられています。この「農振法」に基づき、農業施策の計画的な実施と、農業地域の保全形成を図るために策定した計画です。

小郡市では、市土の約8割が農業振興地域に指定されており、「農用地域」と「他用途地域」に分けられています。

## 第3節 住民意向

本市の現状や問題点、農業農村環境を把握する上で、既存資料だけでは内容的に不十分なため、住民アンケートや座談会を行い、広く住民のニーズ等を把握しました。

### 1. 住民アンケート調査の結果

#### 1-1. 調査内容

調査期間：平成23年1月7日～1月31日

調査方法：郵送による配布、回収

調査対象：約1,500戸

無作為抽出による住民（農業者及び非農業者）

回収数：471通（31.4%）

#### 1-2. アンケート内容

アンケートは、以下の項目について質問しました。

- ・ 回答者の特性
- ・ お住まいの地域の環境の「現況の姿」と「将来のあるべき姿」
- ・ ため池や川などの水辺の状況
- ・ 農村地域の整備のあり方
- ・ 環境配慮型農業や農業農村の振興方法など、今後の農業のあり方
- ・ 耕作放棄地の利用方策
- ・ 農業農村環境が有する様々な機能

#### 【農業に従事されている方について】

- ・ 農業の継続の可能性
- ・ 農地整備で希望すること
- ・ 環境保全型農業への取り組み状況

その他、農業のあり方や農村整備に関する自由意見

### 1-3.調査結果

調査結果に基づく主な意見を以下にまとめました。

なお、詳細な結果については、資料編「3. アンケート調査結果の詳細」に示しています。

項目	主な意見
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○緑が豊かである。</li> <li>○野鳥などの動物が多い。</li> <li>○オオクチバスやブルーギルなどの外来種がみられる。</li> <li>○ホテルを観察できる場所があるが、昔に比べて少なくなった。</li> </ul>
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下水道は整備されている。</li> <li>○生活道路が整備されている。</li> <li>○公園が整備されている。</li> <li>○地域にあった土地利用がされていない。</li> <li>○水辺とふれ合える場所が少ない。</li> <li>○災害の危険があるため池がある。</li> <li>○水辺にごみが多い。</li> <li>○農村地域への住居整備は望まない。</li> <li>○蛍が棲む町にしたい。</li> <li>○地域でつくられた食物を食べたい。</li> <li>○河川、水路、ため池の水が汚く、においがする所がある。</li> <li>○子どもたちと農業への関わりを深める活動をしてほしい。</li> <li>○水草を適度に除去するなど、水辺の管理を充実してほしい。</li> </ul>
生産環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農道が整備されている。</li> <li>○ため池が老朽化している。</li> <li>○外来種を防除したい。</li> <li>○特産品の開発を進め、農業の活性化を図りたい。</li> <li>○耕作放棄地は、景観保全のために使用したい。</li> <li>○耕作放棄地は、農地として存続させたい。</li> <li>○他人に耕地を依頼するなど、今ある農地を保全しながら、農村地域を活性化したい。</li> <li>○農業廃棄物の処理施設の充実や、生活排水と農業用水の分離をしたい。</li> <li>○減農薬・化学肥料栽培に努めたい。</li> <li>○高齢化、後継者不足は、10年前からあまり変わっていない。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集会所などの施設が充実している。</li> <li>○農地は水害を未然に防いでいる。</li> <li>○歴史、文化が保存されている。</li> <li>○みんなに見せたい景色や場所がない。</li> <li>○都市部と農村部との交流がない。</li> <li>○緑が豊かなため池、公園が多い。</li> <li>○景色が美しい水辺、公園が多い。</li> <li>○散歩やランニングをする場所が整備されている。</li> <li>○釣をする人が多いが、釣り針などを放置している人がいる。</li> <li>○すばらしい農村景観は、保護区として指定してほしい。</li> </ul>

## 2. 座談会の結果

### 2-1.調査内容

農業農村環境の現状や住民の意向を把握し、本計画に意見を十分に反映させ、環境保全には地域住民の協力が必要であることを理解してもらう目的で開催しました。

調査方法:公募による参加者を対象に、自由な意見交換及び地図への情報の書き込みを実施した。

また、座談会に参加の無かった行政区については、区長から別途聞き取り調査を行い、住民意見を補完しました。

調査対象：農業振興地域のある7地区（小学校区単位）

表 35 座談会の開催実績

	日 時	地区	会 場	参加人数
1	平成 23 年 9 月 22 日(木) 19:00～	大原	大板井公民館 小郡市大板井 378	13 名
2	平成 23 年 9 月 26 日 (月) 19:00～	東野	東野校区公民館（ひまわり館） 小郡市三沢 83-1	8 名
3	平成 23 年 9 月 30 日(金) 19:00～	小郡	市役所南別館 3 階 小郡市小郡 255-1	14 名
4	平成 23 年 10 月 19 日(水) 19:00～	三国	三国校区公民館（ふれあい館三国） 小郡市三沢 4196-1	16 名
5	平成 23 年 10 月 24 日(月) 19:00～	立石	立石校区公民館（くろつち会館） 小郡市干潟 2056-1	24 名
6	平成 23 年 10 月 26 日(水) 19:00～	御原	御原校区公民館 小郡市稲吉 437-11	15 名
7	平成 23 年 10 月 27 日(木) 19:00～	味坂	味坂校区公民館 小郡市下西鱒坂 253-1	8 名

### 2-2.座談会内容

地域の農村環境や農村振興に関する現状及び問題点、改善方策、将来へのアイデアなど、住民からみた自由な意見を出して頂き、出された意見からニーズの高いものを選定し、本計画に反映します。なお、本計画で直接扱うことのできない分野の意見については、適宜、関係各課へ伝達を行うこととしました。

主として、以下の範囲（要素）について意見を出して頂きました。

なお、意見の書き込みを行った地図は、資料編「4. 座談会意見」に示しています。

表 36 意見の範囲（要素）

【自然環境】	【生活環境】	【生産環境】	【その他】
<ul style="list-style-type: none"> <li>●植物 ●動物</li> <li>●きれいな水</li> <li>●守っていくべき自然</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水辺や緑との触れあい</li> <li>●水路、生活廃水処理</li> <li>●都市との交流</li> <li>●農産物直売所</li> <li>●農村景観 ●歴史・文化</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生産基盤整備 (農地、農道、ため池等)</li> <li>●環境保全型農業</li> <li>●観光農園</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民参加</li> <li>●生物の生息場となっている水路の維持管理</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

## 2-3.調査結果

### (1)自然環境

#### 過去の状況や現状に関する住民意見

##### 【生き物】

- 約20年前には奇形のフナがみられるなど、水質が悪い河川があったが、今では下水道の普及も比較的進み、高原川、宝満川、市街地を流れる一部の水路では、カマツカやホタル、ナマズ、エビやタナゴ類、カメ、二枚貝類が生息するようになった。石原川では、タナゴやメダカが多くみられる。
- 築地川のように、近年水質が悪くなってシジミなどが少なくなったり、ほ場整備、護岸工事、三面張側溝によりメダカ、ハヤ、ドジョウなどが少なくなった場所もある。また、除草剤など農薬の影響で、トンボやホタルなどがなくなった水路もある。
- 小郡市の北部ではため池が多く、サギ、カモ、カワセミなどの水鳥がみられる。弥八郎堤では、オニビシがみられる。このほか、コイやエビが生息している。ため池によっては、ホテイアオイやヒシが多く発生し、それが枯れて水質悪化や、農業利水上の問題を生じているところもある。
- 外来生物としては、ブタクサ（植物）、ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）、ブルーギル、ブラックバス（オオクチバス）などが広範囲にみられる。
- 昔はヒキガエル、ウシガエル、トノサマガエル、ウナギが石の間において、モウセンゴケもあった。最近はそのような場所も少ない。河川も、砂地が少ないので生物が減った。
- 日吉神社（小郡校区）西側水路が美しく水草もある。コイ、フナが上る。

##### 【景観】

- 小郡市は平地で田園風景が美しく、四季を感じる事ができる。夕日も美しい。
- ヤギを放牧しているのどかな風景もみられる。
- ポピー、菜の花、ヒガンバナ、コスモス、スカシユリ、ヒマワリ、ハナミズキ、チューリップが植えられている。土手にツクシもたくさんある。
- モミジ、桜並木、コナラ並木がある一方で、ヤマモモが枯れ、ケヤキの育ちが悪い地域がある。
- 小郡は緑が多い（福岡市、北九州市に比して）。

##### 【取組】

- 1年に1回、御原小の子どもたちが石原川で魚とりをする（コイ、ナマズなど）。既に5年目になる。また、三沢丘陵では、自然観察会が行われている。
- 住民の取組として、河川では、シジミの放流や、ホタルの養殖などを行っている地域がある。浚渫を行って、ホタルが飛び交うようになった水路もある。ため池では、農家の方がホテイアオイを除去している地域もある。また、水ぬきを行い、定期的に干している地域もある（一部ではブラックバス対策として）。

## 課 題

### 【生き物】

- 宝満川河川敷では、草刈り等の管理が悪く、竹やススキなどが茂っている。イラガ、カメムシ、マムシなどもみられ、危ないので、管理をしてほしい。
- 大原地区に、ホタルをよび戻したい。
- イノシシ被害があり、サルもみられる。被害が大きくなる前に、駆除してほしい。
- のぞみが丘の、もともとあった水源環境で、ホタルを育てたい。
- 宝満川の堰には、魚道を設置すべきである。
- 水質保全のためにシジミを放流しているが、シジミを持っていく人が多い。

### 【景観】

- 宝満川、稲吉橋南側などは、竹やぶに覆われているので毎年切ってほしい。
- 宝満川沿いを散歩する人のために、休憩場をつくってほしい。
- 且田ヶ浦堤南側、干潟地区工業団地の周辺は雑木がのび放題になっているため、管理をしてほしい。

### 【取組】

- シジミによる水質浄化を継続するには、予算が必要である。
- 竹やぶの有効利用（バイオマス）。仕組づくりが必要である。
- 市民の力だけではため池の管理が難しい。
- 宝満川と草場川の合流点では、竹やぶの除去や、草刈りが必要である。
- 池の水を抜くが、魚が放置されたにおいが発生する。
- モウソウチクをチップ化する機械の貸し出しを行ってほしい。
- 自然を残したいが、一方では手間がかかるため、維持管理が課題になっている。

## (2)生活環境

### 過去の状況や現状に関する住民意見

#### 【ごみ】

- 市内の人目に付きにくいところ（特に水辺など）では、ごみの不法投棄（弁当がら、空き缶など）が多く目につく。一部のため池では、流れてきたごみが多くたまった状態になっている。そのため、水質が悪くなり、詰まったりして農業利水上、支障を生じている。
- ブラックバス釣りなど、釣人による、つり糸などのごみも多い。
- 大刀洗川付近では、ダンプカーで大量に不法投棄をしていく人もいる。

#### 【ペット】

- 捨て猫が多い。のら猫にエサをあたえる人がいる。また、犬のフンが多く、飼い主のマナーが悪い。

#### 【水質】

- 水質がきれいになった河川と、逆に汚くなった河川の両方が存在しており、汚い水が、農地へ流れて行っている。シジミのいる水路に生活排水が入っている箇所もある。
- 浚渫を定期的に行っており、川がきれいになっている河川もある。
- ため池では、ヘドロがたまったり、夏場に特に水質が悪くなる場所がある。

#### 【まちづくり】

- 河川敷など国管理の範囲はきれいだが、市管理の範囲は、管理が行き届いていない。
- 東野小学校付近では変質者が多い。味坂駅付近は治安が悪く、不審者も出る。子どもアンケートを実施して安全マップを作成している地区もある。
- 景観が良いためか、水辺などは散歩道として利用されている。堤防を歩くのは、気持ちが良い。
- 住宅地の緑が少なくなった。
- 水路の整備工事が途中の区間までしか行われていない場所があり、土砂で埋まっている。
- 下水道が整備されておらず池の水、水路の水が汚い。
- 大雨の時に、冠水する地区がある。
- 土地開発公社所有地が荒れている。

## 課 題

### 【ごみ】

- ごみがたまった池が、通学路や幼稚園の側にある。特に、ごみの不法投棄の多い場所では看板や監視カメラの設置が必要である。
- 川が汚いと、ますますごみが捨てられるため、管理を行ってほしい。

### 【水質】

- 水質改善のため水を抜いて干してみたいため池がある。また、河川の底質環境が悪く、浚渫が必要である。
- 下水道未整備区域については、整備を早く進めてほしい。
- 工業団地からの油の流出があるため、検査や指導を行って欲しい。

### 【まちづくり】

- 通学路だが歩道も無く、交通量が多くて危ない地区があるため、通学路は整備してほしい。また、バイパスを整備したが、住宅地内を通り抜けする車両が減らないので危ない。
- 上下水道は徐々に整備されているが、接続しない人が多い。
- ため池の周遊道路など、散歩道として安全に歩行できる道や、サイクリングロードを整備してほしい。
- 防犯灯の設置が必要な場所がある。
- 国の規定にしばらく、現場にあった道路整備が必要である。
- 現在安全な散歩道は、特に舗装などせずに現状を維持してほしい。
- 花立山をいかし、地域の一体感のある取組が必要だ。
- 運動公園周辺は観光スポットになるので、きれいに整備してほしい。
- 全国的にロードレースが盛んであり、運動公園からあすてらすにかけて、道路を整備してほしい。
- 地域環境を整備し、地域コミュニティ活動につなげたい。
- 稲吉橋が古くて危険である。改善が必要である。
- 市境界の南側に焼却場ができ、影響が心配される。
- 市内には大雨の時に冠水する地域が多数あり、排水設備等の対応が必要である。
- 宝満川の側道は幅員が狭いため、部分的に離合場所を設置してほしい。
- 運動公園からあすてらすにかけての河川沿いの道路が、未整備のままになっている（マスタープランにも載っており、県への働きかけが必要）。
- 松崎公園など、木が大きすぎて手入れが難しい。
- 街路樹が茂って道を覆い、交差点の見通しが悪い場所があるので危ない。
- 水路に蓋がされて清掃ができない。大雨のとき溢水が懸念される。
- 上流の水害対策には、浚渫が完了する必要がある。
- 用排水路の機能は無いが、小水路の川底に水がたまり雑草が生えている。
- バイパスが開通して、車が高速で通り抜けるため、農耕車との接触事故が怖い。
- 東側にバイパスが開通したが、住宅地内を通り抜ける車が減ったという実感が無い。高齢者が多いので事故が怖い。
- 烏田川堤防道路と市道との交差点で数か所、出会い頭の事故が起きている。
- 市道 19 号線と市道 114 号線との三差路で、一時停止しない車がある。

### (3)生産環境

#### 過去の状況や現状に関する住民意見

##### 【ソフト整備】

- 水がきれいな地区では、おいしい米がとれる。
- 学校と協力してもち米を作り、もちつきを行っている地域がある。
- 定期的に泥上げを行っているが、人手が不足している。泥と一緒に大きな石もあがるため文句を言われることも多い。
- 肥料などを作っている地域があり、においや水の汚れが心配である。
- 減農薬が主流になっている。アイガモ農法まではやっていない。
- 集団営農なので農地が美しい。
- 畦の草刈りは年に3回行っている。
- 下流域には、優良な農地が広がっている。
- 田んぼは湿地の役割をするため、トンボが多い。
- 直売所「宝満の市」があり、年間で一人 200 万円分売上げる人がいる。
- あすてらすでは、ふれあい農園、花いっぱい運動が行われている。

##### 【ハード整備】

- 水路を三面張側溝にしたが、泥がたまり水が流れない場所がある。
- 向山堤では水もれがみられる。
- 一の口堤で水もれがみられる。
- 高原川では、護岸が未整備の範囲がある。
- 堤が古く、水があふれることがある。
- 昔は用水路が網の目状にあったが、近年は水路の水量が減った。
- 農地・水保全管理支払交付金事業（旧名称：農地・水・環境保全向上対策事業）でビオトープを整備している場所がある。
- 石原川は堰を倒さないで、水が維持されている。魚に良いのかもしれない。
- 北浦公園は洪水調整地の役割がある。
- 農業用水路に下水が流れ込んでいる場所がある。

## 課 題

### 【ソフト整備】

- 農業振興地域の指定を外して、街や下水道の整備を行い産業を誘致したい。小郡市は人口が増えているのに、家が建てられない地区では発展がない。市街地と比較して児童数が10倍も違う。若者が外へ流出していつてしまう。
- 用水、治水、ため池の機能を知らない人が多いので、周知してほしい。
- 放棄地とまではいかないが、草を刈らない場所があるため、管理をしてほしい。
- 市は農業を基幹産業と言っている。農業のあり方や中長期、短期に分けた施策の検討が必要である。
- 農業の成立、発展が必要である。将来の農業の市の中での位置付けを明確にし、「農村とは」を考える必要がある。
- 地域毎に、農業に対する独自の取組が必要である。
- 小郡インターが近いので、城山公園付近に大規模な直売所を設置してほしい。
- 今後は、集団営農が課題である。集団営農は集落の特徴にあった形で、体制づくりをすすめる必要がある。
- 農業だけでは生活できない。
- 高齢化やTPPの問題をかかえている。
- 地産地消など、自分達で考える農業が必要である。
- 農業がやりにくいので、シーズン限定でよいので農道への一般車輛の進入規制を望む。
- 有志により直売所が拡大されており、広域的な取組が必要である。
- 小郡市らしい美しい農村を残すべきである。
- 農地・水保全管理支払交付金事業（旧名称：農地・水・環境保全向上対策事業）はできれば残してほしい。減農薬などの環境保全に特化した助成は対応が難しい。
- 農地・水保全管理支払交付金事業（旧名称：農地・水・環境保全向上対策事業）で農村環境を守りたい。
- ため池の清掃を受益農家だけで行うのは難しい。
- サラリーマンに比べ農家の所得が少ない。
- 農業後継者が少ない。
- 米作だけでは食べていけない。
- ほ場整備事業で設置したポンプ、ゲート等の維持管理を地元で行うのは難しい。
- 大型の用排水路の浚渫を地元で行うのは難しい。

### 【ハード整備】

- 西下堤と西上堤の間で、堤防が崩れかけている。
- 勘田ヶ浦堤東側の山側が崩れている。
- 水路の護岸法面が急傾斜であり、草刈りがやりにくい。
- 三面側溝にしても、魚や貝が棲めるようにしたい。
- 道路や水路などの基盤が整備されていない地域があり、対応を望む。
- 水はけが悪く、2倍ほどの水路幅がほしい水路がある。
- 水路管理が大変なため、ぜひ三面張側溝にしてほしい（現況土水路）。県管理道路付近では三面張側溝を希望する。
- 用水の確保が必要である。上流の基山側で水がカットされている。
- 未舗装の農道は舗装してほしい。
- 場所によっては三面張側溝ではなく石垣での整備が良いかもしれない。メリハリのある整備が今後は必要である。
- ため池にはフェンスが設置されているが、散策地として利用したい。

## (4)その他

### 過去の状況や現状に関する住民意見

#### 【資源の活用】

- 自然的資源としては、自然豊かな森、クスの大木、大中臣神社の將軍藤などがある。花立山は、貴重な財産である。三沢丘陵は、九州の軽井沢とも言われている。
- 歴史的資源としては、薬師堂（毎月女性がお供えをし、数珠をつくるなど社交場になっている）、祇園神社、大板井神社、福童神社、隼鷹神社、薩摩街道、権現神社、下岩田の一里塚、桜馬場、黒岩稻荷神社などがある。特に、七夕神社は、昔は祭りでみな集まった。社交場などになっている。仙台（東北）との物語があり、全国的に情報を発信したい。

### 課 題

- 歴史的な PR が必要である（高松凌雲誕生の地）。
- 神社が多いので、神社巡りは観光にならないか。
- 駐車場整備が必要である。
- 東野校区を小郡市全体の見本にしたい。
- 小郡官衙遺跡など、史跡整備による観光地化が必要である。
- 花立山登山道は地権者がいて、整備することが難しい。

## 第4節 環境特性及び農村環境整備における課題

本計画の対象範囲である「自然環境」、「生活環境」、「生産環境」に、「交流・農村景観・その他」を加えて現況特性及び住民意向を整理し、各環境ごとに抱えている課題を整理しました。

また、既存資料調査で整理した自然環境、生活環境、生産環境について、各情報を重ね合わせた環境特性図を、図 30～図 32 に示します。

### 1. 自然環境

#### 現況特性

- 市域中央部の平坦地、北東部の台地、北西部の丘陵地からなる。
- ため池が多く、57箇所が市内に点在する。
- 樹林地は北西部の丘陵地と花立山周辺に限られ、近年においては宅地開発も進んでいる。市域の大部分が農耕地となっている。
- ため池等の水辺が多く、水鳥が多く見られる。
- 大部分のほ場整備が完了しているが、それら農耕地においては、単一的な自然環境が広がる。
- 城山地区の未整備の水田では生物種が多い。
- 独特の水路網により絶滅危惧種などが点在する。
- 下流側ほど、農薬の使用頻度が高い。

#### 住民意向

##### 【アンケート】

- 緑が豊かである。
- 野鳥などの動物が多い。
- オオクチバスやブルーギルなどの外来種がみられる。
- ホテルを観察できる場所があるが、昔に比べて少なくなった。

##### 【座談会】

- 宝満川河川敷では、草刈り等の管理が悪く、竹やススキなどが茂っている。イラガ、カメムシ、マムシなどもみられ、危ないので、管理をしてほしい。
- 大原地区に、ホテルをよび戻したい。
- イノシシ被害があり、サルもみられる。被害が大きくなる前に、駆除してほしい。
- のぞみが丘の、もともとあった水源環境で、ホテルを育てたい。
- 宝満川の堰には、魚道を設置すべきである。
- 水質保全のためにシジミを放流しているが、シジミを持っていく人が多い。
- 宝満川、稲吉橋南側などは、竹やぶに覆われているので毎年切ってほしい。
- 宝満川沿いを散歩する人のために、休憩場をつくってほしい。
- 且田ヶ浦堤南側、干潟地区工業団地の周辺は雑木がのび放題になっているため、管理をしてほしい。
- シジミによる水質浄化を継続するには、予算が必要である。
- 竹やぶの有効利用（バイオマス）。仕組づくりが必要である。
- 市民の力だけではため池の管理が難しい。
- 宝満川と草場川の合流点では、竹やぶの除去や、草刈りが必要である。
- 池の水を抜くが、魚が放置されたにおいが発生する。
- モウソウチクをチップ化する機械の貸し出しを行ってほしい。
- 自然を残したいが、一方では手間がかかるため、維持管理が課題になっている。

#### 課題

- 近年、北西部丘陵地の宅地開発が進み、生息する生き物への影響が懸念される。
- 外来種の広い範囲での進入があり、防除策を講じる必要がある。
- ため池や樹林地を保全し、生物の生息場所を確保することが必要である。
- ほ場整備や水路の改修等においては、地域に応じて多自然水路等の環境配慮を検討する必要がある。
- ホテルがより多くの場所で観察できるように、水質の保全や生息環境の創出が必要である。
- 除草剤等農薬の減量、未使用を推し進める必要がある。
- 水路の泥上げ等の日常的な維持管理においては、地域の生物への配慮が必要である。
- イノシシ等の鳥獣害に対する防除を検討する必要がある。

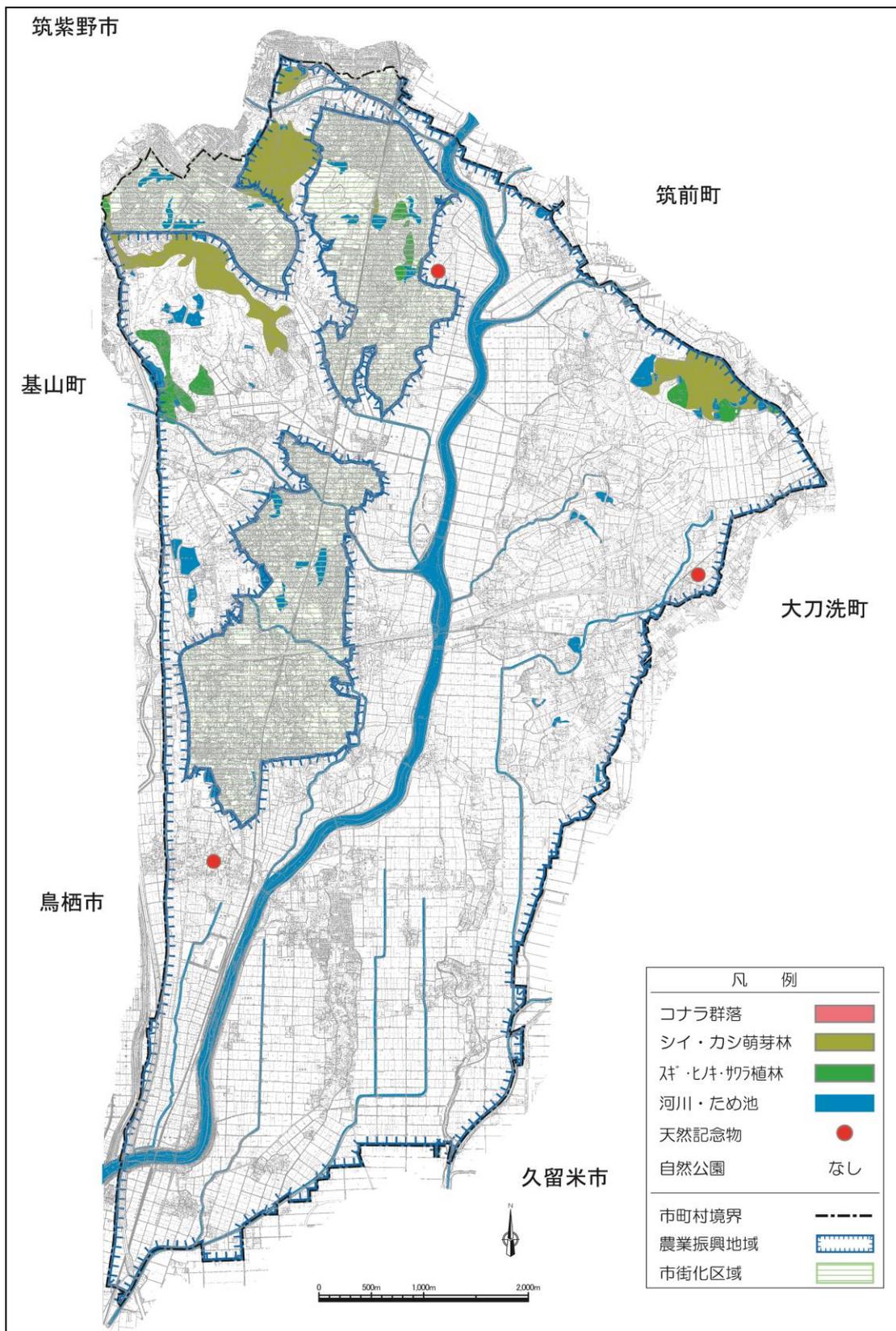


図 30 自然環境特性図

## 2. 生活環境

### 現況特性

- 宅地は市域の約 17%を占め、市街化区域が編入（増加）されている。
- 宝満川右岸側に市街地が集約しており、近年において北西部の丘陵地で宅地開発が進んでいる。
- 人口、世帯数ともに増加傾向にあり、上下水道ともに整備は着実に進んでいる。
- 九州自動車道、大分自動車道が通過し、西日本鉄道や甘木鉄道も通っている。しかし、市街地からやや離れた所では交通網が発達しておらず、自家用車やコミュニティバスの運用が必要である。
- 公園やレクリエーション施設は充実している。

### 住民意向

#### 【アンケート】

- 下水道は整備されている。
- 公園が整備されている。
- 水辺とふれ合える場所が少ない。
- 水辺にごみが多い。
- 蛍が棲む町にしたい。
- 河川、水路、ため池の水が汚く、においがする所がある。
- 子どもたちと農業への関わりを深める活動をしてほしい。
- 水草を適度に除去するなど、水辺の管理を充実してほしい。
- 生活道路が整備されている。
- 地域にあった土地利用がされていない。
- 災害の危険がある、ため池がある。
- 農村地域への住居整備は望まない。
- 地域でつくられた食物を食べたい。

#### 【座談会】

- ごみがたまった池が、通学路や幼稚園の側にある。特に、ごみの不法投棄の多い場所では看板や監視カメラの設置が必要である。
- 川が汚いと、ますますごみが捨てられるため、管理を行ってほしい。
- 水質改善のため水を抜いて干してみたいため池がある。また、河川の底質環境が悪く、浚渫が必要である。
- 下水道未整備区域については、整備を早く進めてほしい。
- 工業団地からの油の流出があるため、検査や指導を行って欲しい。
- 通学路だが歩道も無く、交通量が多くて危ない地区があるため、通学路は整備してほしい。また、バイパスを整備したが、住宅地内を通り抜けする車両が減らないので危ない。
- 上下水道は徐々に整備されているが、接続しない人が多い。
- ため池の周遊道路など、散歩道として安全に歩行できる道や、サイクリングロードを整備してほしい。
- 防犯灯の設置が必要な場所がある。
- 国の規定にしばられず、現場にあった道路整備が必要である。
- 現在安全な散歩道は、特に舗装などせずに現状を維持してほしい。
- 花立山をいかし、地域の一体感のある取組が必要だ。
- 運動公園周辺は観光スポットになるので、きれいに整備してほしい。
- 全国的にロードレースが盛んであり、運動公園からあすてらすにかけて、道路を整備してほしい。
- 地域環境を整備し、地域コミュニティ活動につなげたい。
- 稲吉橋が古くて危険である。改善が必要である。
- 市境界の南側に焼却場ができ、影響が心配される。
- 市内には大雨の時に冠水する地域が多数あり、排水設備等の対応が必要である。
- 宝満川の側道は幅員が狭いため、部分的に離合場所を設置してほしい。
- 運動公園からあすてらすにかけての河川沿いの道路が、未整備のままになっている（マスタープランにも載っており、県への働きかけが必要）。
- 松崎公園など、木が大きすぎて手入れが難しい。
- 街路樹が茂って道を覆い、交差点の見通しが悪い場所があるので危ない。
- 水路に蓋がされて清掃ができない。大雨のとき溢水が懸念される。
- 上流の水害対策には、浚渫が完了する必要がある。
- 用排水路の機能は無いが、水路の川底に水がたまり雑草が生えている。
- バイパスが開通して、車が高速で通り抜けるため、農耕車との接触事故が怖い。
- 東側にバイパスが開通したが、住宅地内を通り抜ける車が減らない。高齢者が多いので事故が怖い。
- 烏田川堤防道路と市道との交差点で数か所、出会い頭の事故が起きている。
- 市道 19 号線と市道 114 号線との三差路で、一時停止しない車がある。

### 課題

- ため池の管理が行き届いておらず、水質悪化や悪臭、魚のへい死などがあり、対策が必要である。
- ごみの投棄が多く、管理していく必要がある。
- 農村環境を活かした、次世代教育が求められている。
- 水辺とふれ合える環境整備（アクセス性や水質改善など）が必要である。
- 安全な交通網や河川管理、市街地の防災・防犯対策等について、関係機関と連携し改善する必要がある。

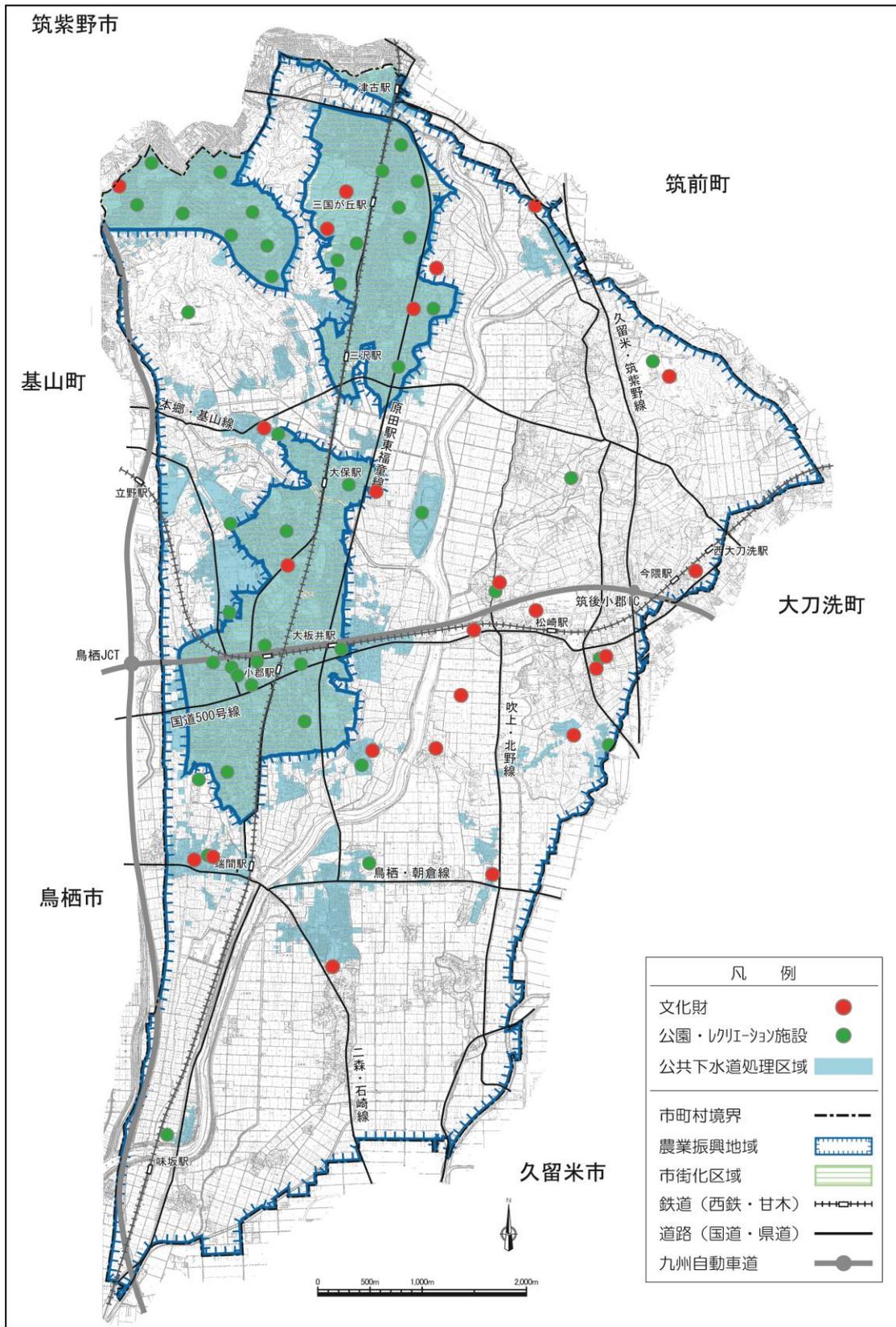


図 31 生活環境特性図

### 3. 生産環境

#### 現況特性

- 大部分のは場整備が完了しており、法面や水路、農道の充実による生産環境の向上が図られている。
- 一部未整備の地域もあり、現状では利水環境の管理を中心に、今後の整備計画が進められている。
- 耕作地面積は徐々に減少しており、耕作放棄地の割合は1%程度と低いものの、徐々に増加しつつある。
- 農家人口は減少傾向にあり、生産額も徐々に少なくなっている。

#### 住民意向

##### 【アンケート】

- 農道が整備されている。
- 外来種を防除したい。
- 耕作放棄地は、景観保全のために使用したい。
- 他人に耕地を依頼するなど、今ある農地を保全しながら、農村地域を活性化したい。
- 農業廃棄物の処理施設の充実や、生活排水と農業用水の分離をしたい。
- 減農薬・化学肥料栽培に努めたい。
- 高齢化、後継者不足は、10年前からあまり変わっていない。
- ため池が老朽化している。
- 特産品の開発を進め、農業の活性化を図りたい。
- 耕作放棄地は、農地として存続させたい。

##### 【座談会】

- 農業後継者が少ない。
- 農業だけでは生活できない。
- 農業振興地域の指定を外して、街や下水道の整備を行い産業を誘致したい。小郡市は人口が増えているのに、家が建てられない地区では発展がない。市街地と比較し児童数が10倍も違う。若者が外へ流出していつてしまう。
- 用水、治水、ため池の機能を知らない人が多いので、周知してほしい。
- 放棄地とまではいかないが、草を刈らない場所があるため、管理をしてほしい。
- 市は農業を基幹産業と言っている。農業のあり方や中長期、短期に分けた施策の検討が必要である。
- 農業の成立発展が必要である。将来の農業の市の中での位置付けを明確にし、「農村とは」を考える必要がある。
- 地域毎に、農業に対する独自の取組が必要である。
- 小郡インターが近いので、城山公園付近に大規模な直売所を設置してほしい。
- 今後は、集団営農が課題である。集団営農は集落の特徴にあった形で、体制づくりをすすめる必要がある。
- 地産地消など、自分達で考える農業が必要である。
- 農業がやりやすいように、シーズン限定でよいので農道への一般車輛の進入規制を望む。
- 有志により直売所が拡大されており、広域的な取組が必要である。
- 小郡市らしい美しい農村を残すべきである。
- 農地・水保全管理支払交付金事業（旧名称：農地・水・環境保全向上対策事業）はできれば残してほしい。減農薬などの環境保全に特化した助成は対応が難しい。
- 農地・水保全管理支払交付金事業（旧名称：農地・水・環境保全向上対策事業）で農村環境を守りたい。
- ため池の清掃を受益農家だけで行うのは難しい。
- サラリーマンに比べ農家の所得が少ない。
- は場整備事業で設置したポンプ、ゲート等の維持管理を地元で行うのは難しい。
- 大型の用排水路の浚渫を地元で行うのは難しい。
- 西下堤と西上堤の間で、堤防が崩れかけている。
- 勘田ヶ浦堤東側の山側が崩れている。
- 水路の護岸法面が急傾斜であり、草刈りがやりにくい。
- 三面側溝にしても、魚や貝が棲めるようにしたい。
- 道路や水路などの基盤が整備されていない地域があり、対応を望む。
- 水はけが悪く、2倍ほどの水路幅がほしい水路がある。
- 水路管理が大変なため、ぜひ三面張側溝にしてほしい。県管理道路付近では三面張側溝を希望する。
- 用水の確保が必要である。上流の基山側で水がカットされている。
- 未舗装の農道は舗装してほしい。
- 場所によっては三面張側溝ではなく石垣での整備が良い。メリハリのある整備が今後は必要である。
- ため池にはフェンスが設置されているが、散策地として利用したい。

#### 課題

- 生産性向上のための生産基盤整備が必要な地域がある。
- ため池や利水施設などが老朽化しており、改善する必要がある。
- 農業従事者の高齢化や、後継者不足に対応するシステムが必要である。
- 生活排水と農業用水を分離し、農業用水の水質保全が必要である。
- 耕作放棄地の有効活用を検討する必要がある。
- 環境保全型農業を推進すべきである。
- 水路構造は、安全に草刈りするための配慮も必要である。
- 農地を保全し、農村環境を維持するための活動には、継続可能な体制づくりや行政の支援が必要である。
- ため池の水質改善や水草対策として、冬期の池干しを検討する必要がある。

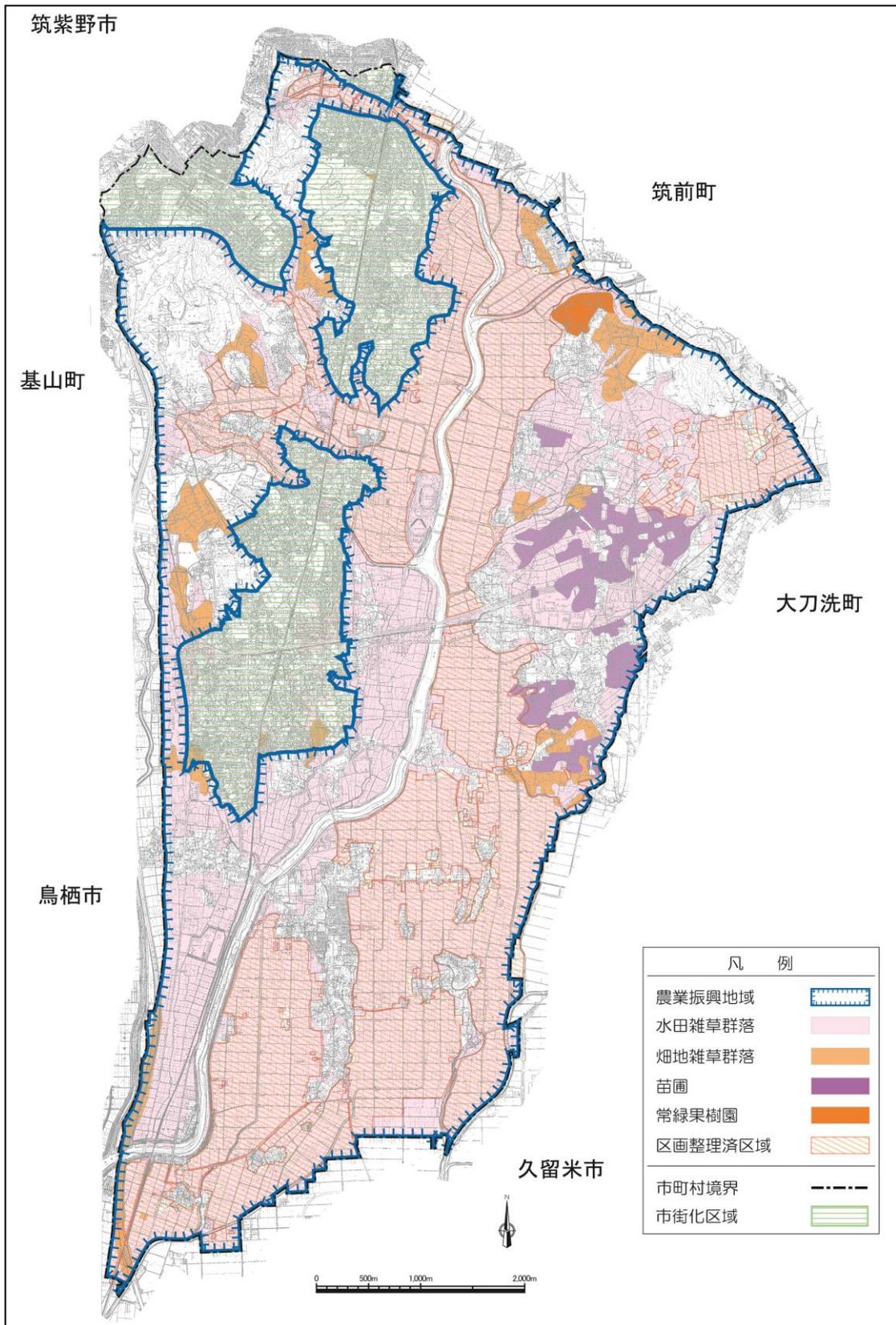


图 32 生産環境特性图

## 4. 交流・農村景観・その他

### 現況特性

- 市街地を少し外れるとすぐに農地と隣接しており、農業を常に身近に感じれる環境にある。
- 広大な宝満川流域に農地が広がり、農作物の緑と空の青から成る農村景観がみられる。
- 農業にまつわる文化が伝承されており、その片鱗を市内の各所でみることができる。
- 農地・水保全管理支払交付金事業（旧名称：農地・水・環境保全向上対策事業）に21の組織が取り組んでおり、生態系保全や農村の景観形成に努めている。

### 住民意向

#### 【アンケート】

- 集会所などの施設が充実している。
- 農地は水害を未然に防いでいる。
- 歴史、文化が保存されている。
- みんなに見せたい景色や場所がない。
- 都市部と農村部との交流がない。
- 緑が豊かなため池、公園が多い。
- 景色が美しい水辺、公園が多い。
- 散歩やランニングをする場所が整備されている。
- 釣をする人が多いが、釣り針などを放置している人がいる。
- すばらしい農村景観は、保護区として指定してほしい。

#### 【座談会】

- 歴史的なPRが必要である（高松凌雲誕生の地）。
- 神社が多いので、神社巡りは観光にならないか。
- 駐車場整備が必要である。
- 東野校区を小郡市全体の見本にしたい。
- 小郡官衙遺跡など、史跡整備による観光地化が必要である。
- 花立山登山道は地権者がいて、整備することが難しい。

### 課題

- 農業を発展させるための地産地消のしくみの拡充が必要である。
- 都市部との交流をはかり、市民全員が、本市の基幹産業である農業を理解する必要がある。
- 美しい農村景観を形成し、保全する計画づくりが必要である。